

# 一般国道 23 号中勢道路発掘調査報告

— 鈴鹿 5 工区 甲懸Ⅱ遺跡 —

2005 年 3 月

鈴鹿市考古博物館



調査区遠景 (南西から)





調査区遠景 (上空から)

## 例 言

1. 本書は、鈴鹿市が国土交通省中部地方整備局から委託を受けた、一般国道 23 号中勢道路建設予定地にかかる平成 16 年度の埋蔵文化財発掘調査の報告をまとめたものである。
2. 調査にかかる費用は国土交通省中部地方整備局の負担による。
3. 調査体制は、下記により実施した。

調査主体	鈴鹿市市長	川岸光男
調査担当	鈴鹿市考古博物館	
(組織及び構成)	鈴鹿市考古博物館館長	平井茂公
	埋蔵文化財グループリーダー	中森成行
	埋蔵文化財グループ 主幹	宮崎正光
		北条正則
	副主査	田中忠明
		水橋公恵
	事務吏員	伊藤 淳
	嘱託職員	吉田真由美
		林 和範
	臨時職員	杉本恭子
		坂下日向
		徳永由起子
		永戸久美子
		別府智子

現地作業担当 社団法人 中部建設協会

4. 現地調査は、上記係員のうち、宮崎、吉田が担当した。
5. 現地での調査は平成 16 年 10 月 21 日から平成 17 年 2 月 9 日である。
6. 本書の編集・執筆は吉田が担当した。遺物の実測にさいしては徳永、永戸、別府の協力を得た。
7. 座標は、国土座標 VI 系を用いている。図中の方位は座標北を示す。
8. 遺構番号は遺構の性格を示す記号の後ろに発見順に番号を与えた。調査区を 4 m グリットに分割し、南北方向：アルファベット、東西方向：数字を組み合わせてグリット名とした (Plate 6)。  
SV：谷 SK：土坑 Pit：小穴
9. 本調査にかかる遺物・図面・写真はすべて鈴鹿市考古博物館が保管している。
10. 調査及び報告書刊行にあたっては地元関係各位をはじめ、下記の方々にご指導、ご協力を得た。  
記して感謝申し上げます。  
稲生町自治会、河北秀実、豊田祥三、新田 剛、八賀 晋、穂積裕昌



## 目次

I. はじめに	1
II. 遺構と遺物	2
III. まとめ	4
IV. 甲懸Ⅱ遺跡における自然化学分析	株式会社古環境研究 31

## 図版目次

Plate 1	周辺の遺跡 (1:25,000)	7
Plate 2	調査区位置図 (1:5,000)	8
Plate 3	遺構平面図 (1:200)	9
Plate 4	調査区西壁断面図 (1:50)	11
Plate 5	谷 SV02・SV03・SV05・SV06 断面図 (1:50)	13
Plate 6	谷 SV03・SV04・土坑 SK11 断面図 (1:50) 地区割図 (1:800)	15
Plate 7	出土遺物 (1:4)	16
Plate 8	出土遺物 (1:4)	17
Plate 9	出土遺物 (1:4)	18
Plate 10	出土遺物 (1:4)	19
Plate 11	出土遺物 (1:4)	20
Plate 12	出土遺物 (1:4)	21
Plate 13	出土遺物 (1:4 石器 1:3)	22
Plate 14	遺構写真	23
Plate 15	遺構写真	24
Plate 16	遺物写真	25
Plate 17	遺物写真	26
Plate 18	遺物写真	27
Plate 19	遺物写真	28
Plate 20	遺物写真	29
Plate 21	遺物写真	30
Plate 22	甲懸Ⅱ遺跡の花粉・孢子	33
Plate 23	甲懸Ⅱ遺跡谷 S V 06 出土木材 I	34
Plate 24	甲懸Ⅱ遺跡谷 S V 06 出土木材 II	34
	甲懸Ⅱ遺跡谷 S V 06 出土試料における花粉ダイアグラム	35

## カラー図版目次

Color Plate 1	調査区遠景 (南西から)	i
Color Plate 2	調査区全景 (垂直)	ii

## 表目次

Tab. 1	遺物観察表	4
Tab. 2	谷 SV06 出土試料における花粉分析結果	32
Tab. 3	谷 SV06 出土木材樹種同定結果	32
Tab. 4	報告書抄録	36

## はじめに

### 【調査に至る経緯】

中勢道路は鈴鹿市北玉垣町から河芸町、津市、久居市、一志郡嬉野町（現松阪市）を通り、一志郡三雲町小津（現松阪市）に至る延長 33.8 km の道路で、一般国道 23 号の交通量増加による交通渋滞を緩和するために計画されたものである。

鈴鹿工区の事業推進を図るため、5 工区について早期調査が必要となり、三重県教育委員会の依頼によって、平成 15 年度に鈴鹿市が 5 工区内に所在する池ノ下Ⅱ遺跡、浄土池遺跡、野田遺跡、甲懸Ⅱ遺跡の 4 遺跡についての範囲確認調査を国土交通省中部整備局から受託し、調査を行った。

調査の結果、調査を行った 4 遺跡のうち、野田遺跡では、幅約 2 m、深さ 0.4 m、方位はほぼ座標北を示す南北溝 SD01 と溝 SD01 と重複する幅 1.7 m 以上、深さ 0.1 m の溝 SD07 を検出したが、遺物の出土はなかった。その他、地境の溝が検出された。また、池ノ下Ⅱ遺跡では現代のものと考えられる 10 間×1 間以上の掘立柱建物（小屋）と雨落ち溝が検出された。浄土池遺跡では、土師器、須恵器など包含する層が確認できたが、遺構は確認できなかった。これらの結果を踏まえて 3 遺跡については、本調査をおこなう必要性はないものと判断した。

甲懸Ⅱ遺跡については、大半が通称サーキット道路建設の際に土取りがされていたため、遺構は確認できなかったが、北西部の調査区で溝状の遺構を検出し、須恵器が出土した。そして遺跡範囲外になる北側の隣接する山林において家形埴輪片を採集したことから、追加の調査区を設けて調査を行ったところ、溝状の遺構から埴輪片が多数出土した。このことから、遺跡の範囲を広げ、平成 16 年度に本調査を実施した。調査は 10 月 21 日から重機による表土除去作業を開始した。植林された木の根のため作業が多少遅れたものの、11 月 2 日から作業員による遺構検出、掘削を開始、2 月 9 日に航空測量を実施し、現地での作業を終了した。

### 【周辺の遺跡】

稲生地区には旧石器時代から中世まで多数の遺跡が分布する。市内の数少ない旧石器時代の遺物が採集された遺跡が、当地区稲生町北方から野町付近の台地にかけて分布する。今村 A 遺跡、北野遺跡、野田遺跡、大新田遺跡、池ノ下遺跡では、チャートを石材としたナイフ形石器が採集されている。山脇遺跡ではチャート製のナイフ形石器と搔器、祓山遺跡ではチャート製のナイフ形石器、搔器とサヌカイト製のナイフ形石器が採集されている。

鈴鹿市の中で稲生地区においては古墳が少なく、甲懸Ⅱ遺跡の東 800 m に位置する北山古墳群が知られるのみである。隣接する天名地区の丘陵上には野田口古墳群、大塚山古墳、権現山古墳、岩ノ谷古墳、池ノ杭

古墳群、一本松古墳群、坂本山古墳、鎌谷古墳群、奥山田古墳、奈良池古墳などがある。これらの古墳は調査が行われていないため、実態は不明である。北山 1 号墳は明治中期に鉄刀・玉類を出したというが、昭和 41 年に行われた調査では埋葬主体部や周溝は検出されず、円筒埴輪片が数点出土し、焼成の状態から稲生古窯跡との関連が想定されている。

甲懸Ⅱ遺跡から 2～2.5 km 南を流れる中ノ川南岸の丘陵には三重県下最大の須恵器生産窯跡群である徳居古窯跡群がある。その北岸の丘陵には稲生古窯跡群があり、稲生 1・2 号窯は甲懸Ⅱ遺跡の西 800 m ほどに位置し、スズカサーキット遊園地建設に伴い調査されている。3 号窯は甲懸Ⅱ遺跡近くに、4 号窯は甲懸Ⅱ遺跡の南方に所在したとされ、須恵器片や窯壁塊が採集されているがすでに消滅している。稲生 1・2 号窯は 5 世紀末から 6 世紀初頭に生産が開始され、やや時間をおいて 7 世紀中頃に最盛期を迎える。この 2 基の窯では須恵器のほか埴輪も生産されている。

古墳時代後期の集落遺跡である稲生遺跡、伊奈富遺跡、稲生中村遺跡では調査が行われている。甲懸Ⅱ遺跡から 500 m ほど南に位置する稲生遺跡では 5 世紀後葉から 6 世紀後葉にかけての堅穴住居 33 棟と大溝を検出した。ほぼ全ての堅穴住居から滑石製白玉、手捏ね土器が出土し、一部の堅穴住居からは滑石製勾玉、双孔円盤が出土している。また、大溝からも滑石製白玉、手捏ね土器、獣系（人形）土製品が出土している。伊奈富遺跡では 6 世紀の堅穴住居 5 棟検出され、そのうち 1 棟から滑石製白玉が出土している。稲生中村遺跡では堅穴住居 3 棟と掘立柱建物 1 棟が検出されている。稲生、伊奈富遺跡の集落形成時期は稲生古窯跡群の操業開始時期とほぼ同時期であり、須恵器生産との関係が指摘されている。

## 遺構と遺物

### 1. 基本層序

- I 表土
- II 砂質シルト層 (以下地山)
- III 粗砂層
- IV 粘質シルト層

### 2. 遺構

調査区は東から西へと緩やかに下る斜面にあたる。

遺構の検出は重機によって表土を10～50cm除去した砂質シルトおよび粗砂層(地山)直上で行ったが、斜面下にあたる西側では上部から流れ込む土が厚く堆積しており、遺構の検出が困難であったため、さらに20～30cm重機で掘削した後、人力によって掘削を行った。

調査の結果、上部から流れ込む自然の谷、土坑2基、多数の小穴を確認した。

**谷SV01** 試掘調査で埴輪が出土した溝状の遺構である。調査区の北側に位置し、東から西へと蛇行しながら流れる自然の谷であることが明らかとなった。谷頭周辺から最も多く埴輪片、須恵器が出土し、そのほとんどが、地山直上(谷底)、または地山から5cm程度の埋土に含まれる。下流の埋土、谷底からも埴輪片、須恵器が出土している。その出土状況から埴輪片は東側の上部より転落してきたものと思われる。

**谷SV02** 谷SV01の南に位置し、東から蛇行しながら西へと流れる。谷SV01と同様な状況で、埴輪片や須恵器、土師器が出土している。遺構断面の観察から谷SV06が埋没した後、形成される。

**谷SV03・SV04** 谷SV03は調査区の東から途中谷SV04と合流し、蛇行しながら南西へと続く。調査区東壁において確認できる断面U字状の形状から、人為的に掘削されたと考えられる。谷SV03と谷SV04に挟まれる箇所は古墳の可能性が考えられ、直径18m前後の円墳が想定される。谷SV04と合流する地点から下流は自然地形である。谷SV01、SV02に比べ遺物の出土量は少ないが、谷SV04からは最も残りの良い須恵器坏蓋(122)が出土している。

**谷SV05** 谷SV03と谷SV06に挟まれ、調査区の南辺でその谷頭を確認した。土師質の埴輪片が硬質のものに比べ比較的多く出土している

**谷SV06** 幅3～4m、深さ1～2.5mを測り、他の谷とは異なる形状を呈する。谷SV06が埋没してから、谷SV02が形成されることから、谷SV06は他の谷に先行するものと考えられる。谷底からは少量の土器片と共に堆積した落ち葉や木(未加工)が出土している。この谷底からは常に水が湧き出していた。出土した木の中で長さ50cm、直径25cmほどのものがあり、出土した状況から足場として利用されていたように見え、水汲み場として利用されていた可能性が考えられる。谷底から出土した土器は縄文土器1点、弥生土器1点である。

**谷SV08** 谷SV02の北、ほぼ隣接している。若干の埴輪が出土している。

**谷SV09** 谷SV02と谷SV06の間に位置する。比較的深く刻まれた谷頭から、埴輪、須恵器とともに旧石器時代のものと考えられる石器剥片が3点出土している。

**谷SV12** 調査区南辺でその谷頭を検出した。少量の埴輪が出土している。

**土坑SK07** 試掘調査の際、東半分が確認されている。不整形な土坑で長径1.1m、短径0.9m、深さ0.3mを測る。遺物が出土していないため、その性格は不明である。

**土坑SK11** 直径1.2m、深さ0.5mを測る。谷SV03を切る。遺物が出土していないため、土坑SK07と同様その性格は不明である。

調査区の北東部で確認した小穴群は遺物の出土はない。建物の柱穴ではなく、耕作に関連するものと思われる。

### 3. 遺物

**円筒埴輪** 埴輪の口縁部の形態は大きく分けて5種類見られる。

**I類(2～14)** 口縁部は端面をナデによって窪ませる。外面は一次調整縦刷毛の後、二次調整の横刷毛を施す。5、7、14には静止痕がみられる。内面は口縁直下から横刷毛を施す。須恵質のもの、硬質で橙色、淡黄橙色を呈するもの、土師質で橙色を呈するものがある。

**II類(1)** 須恵質で口縁部を屈曲させ端部に面を持つ。外面は斜め方向に刷毛調整を行う。

**III類(15～22)** 口縁端部にわずかな面を持つ。土師質で、淡黄橙色を呈する。15は横刷毛による調整を施し、16は縦刷毛による調整を施す。他は風化が著しく調整は不明である。

**IV類(37)** 口縁部に幅1.5cmほどの突帯を貼り付けたものである。土師質で橙色を呈する。

**V類(22～36)** 口縁端部近くで大きく外反し、端部を折り返す。硬質のものは赤褐色ないし橙色、浅黄橙色を呈し、外面は右肩上がりの斜め方向に刷毛による調整を施し、内面は横方向に刷毛による調整を施す。

I～IV類は円筒埴輪の口縁部で、V類は形状、調整方法、焼成などから朝顔形埴輪の口縁部と判断した。II類、IV類はそれぞれ1点のみの出土である。底部には2種類の形状がある。1類(38～49)はほぼ直立し、外面は縦刷毛というよりやや右肩上がりの斜め方向の刷毛による一次調整を施し、底部を切り取る。内面は指押えのあと、ナデもしくはケズリによる調整を施す。39～41は須恵質、49は土師質でその他は硬質である。2類(50～52)は土師質で、底面が上方の加重を受けるためやや幅広い面をもっておさめられる従来の技法によるものである。底部に段を持つ「淡輪技法」を用

いたものは確認できていない。

突帯の形状は断面M字状のもの(A類:70~102, 112~117)とやや端部がかすかにくぼむ台形状のもの(B類:103~111)の2種類に分類でき、A類は突帯の高さで細分することができる(並:a, 低:b)。焼成は須恵質、硬質、土師質とある。大部分がA a類である。A b類は硬質のものが1点で、他は土師質である。B類は土師質のみである。

2次調整は、確認できるもののほとんどが断続的(B種)横刷毛である。78は原体の形状が大きく異なる。80は焼きひずみのため、直立しないが、第1段の高さは15.7cm、第2段の高さは突帯間で9.5cm、突帯の内法で7.5cmを測る。第1段は縦方向の刷毛による一次調整のあと、突帯の直下のみ横刷毛による二次調整を行う。第2段は突帯間より幅のある約8cmほどの原体によって断続的横刷毛を施し、左肩上がりの斜めの静止痕が残る。静止痕の間隔は約8cmである。81は突帯の幅が約11cm以上を測り、突帯間を複数回に分けて断続的横刷毛を施し、同様の静止痕が残る。75も突帯間を複数回に分けて断続的横刷毛を施し、同様の静止痕が残る。

**朝顔形埴輪** 口縁端部(23~36)は、前述のとおり形状、調整方法、焼成などから朝顔形埴輪の口縁部と判断した。口縁部(53~59)は頸部から比較的まっすぐ伸び、口縁端部近くで大きく外反し、端部を折り返す。硬質のものは赤褐色ないし橙色、浅黄橙色を呈し、外面は右肩上がりの斜め方向に刷毛による調整を施し、内面は頸部から口縁端部に向かって横方向→斜め方向→横方向に刷毛による調整を施す。断面M字状の突帯が一条巡る。土師質のもの(60)は橙色を呈し、断面が方形の突帯を持つ。表面が著しく風化しているため調整は不明である。

頸部の屈曲部には断面三角形の突帯が貼り付けられている。肩部の調整は右肩上がりの斜め方向に刷毛調整を施し、突帯(断面M字状)の下方は断続的横刷毛による2次調整を施す。突帯から約3cm下に直径5cm(推定)ほどの円形の透かしを持つ(66)。

**形象埴輪** 細片が多く、その形状がかるうじて判断できるものには家形、人物、馬形埴輪がある。

家形埴輪(134~143)は昨年度の範囲確認調査の際にも出土している。134は屋根から壁にかけての破片で粘土による斗束の表現がある。135~140は壁の破片と考えられ、140には2本の直線が刻まれている。135~139は、ちょうど壁の角にあたる箇所破片と思われる。141~143は軒先にあたるものであろうか。

144~152は人物埴輪と考えられる。144は巫女埴輪の脇にあたり、貼り付けてある帯状の粘土は襷にあたる。145, 146はその形状からそれぞれ首、腕と思われる。147~150は衣服の重なりを表現しているものと思われる。151, 152は巫女埴輪の衣服の帯にあたると思われる。

153, 154, 156, 163は馬形埴輪と考えられる。153, 154, 156は障泥の部分と思われる。163は筒状でその大きさから馬の脚と思われる。

その他、155, 157~162, 164~168は形象埴輪と考えられるが、不明である。

**須恵器** 坏蓋、坏身、高坏、壺、はそう、甕、器台、装飾付須恵器が出土している。

**坏蓋**(122~126) 122は推定口径143mm、推定器高41.5mmを測る。天井部は平らで稜は鋭く、口縁部は垂直に下がる。谷SV04から出土。123は推定口径124mmを測る。谷SV01出土。124は推定口径130mmを測る。口縁部に波状文を施す。谷SV01出土。125は推定口径135mmを測る。126は推定口径102mmを測る。

**坏身**(127) 推定口径94mmを測る。口縁部の立ち上がりはやや内傾し、端部に面を持つ。受部はほぼ水平に突出する。谷SV01出土。

**高坏**(128) 坏部の一部が残存するのみである。稜の下に波状文を施す。

**壺**(129) 有蓋壺の口縁部から頸部にかけての破片で、推定口径100mmを測る。口縁部の立ち上がりはやや内傾し、口縁端部には一条の沈線が巡る。受部の下には波状文を施す。

**罍**(130) 推定口径126mmを測る。口縁部は外反した後、段をなしてさらに外方へ屈曲させ、口縁端部は面を持つ。頸部には波状文が巡る。

**甕**(132, 133) いずれも頸部に波状文を施す。

**器台**(131) 推定底径162mmを測る。低い2条の突帯の上方には方形ないし三角形の透かしを持つものと思われる。

**装飾付須恵器**(121) 装飾付須恵器の装飾部分にあたるはそうである。底部には本体から剥離した痕跡が残る。肩部、体部には波状文が巡る。

**土師器**(120) 谷SV02出土。台付甕の脚部のみである。推定底径91mmを測る。風化が著しく、器面調整の痕跡は残っていない。底部端部を指で押えた痕跡のみ確認できる。

**縄文土器**(118) 谷SV06出土。突帯文土器の突帯部分にあたると思われる。かなり磨耗しているため定かではない。

**弥生土器**(119) 谷SV06出土。壺型土器の底部である。風化が著しく、器面の調整等不明である。縄文土器と同様、磨耗している。

**石器** 磨製石斧(169) 谷SV01出土。粘板岩製で使用中に割れたものと思われる。

**剥片**(写真) E-4区から1点、谷SV01から1点、谷SV02から1点、谷SV09から3点出土している。



## まとめ

今回の調査の結果、埋土に埴輪を含む谷を確認した。谷SV06を除く谷はいずれも谷が埋没し始める以前から、埴輪や須恵器が転落していることや埴輪に時期差があまりないと考えられることから、古墳の造営、もしくは埴輪・須恵器生産に関連して、斜面の樹木が伐採されたことで、一気に侵食が進み、谷が形成されたものと思われる。出土した多数の埴輪は古墳から転落してきたものか、窯から出された製品を峻別し、廃棄したもので、尾根上に古墳か、工房など生産に関連した集落が存在したものと推定される。しかし、調査区内では明確な古墳の痕跡や窯跡は確認できていない。古墳が存在していたならば、その墳丘はすでに削平されてしまったものと思われる。窯跡の場合、近隣に存在する可能性も考えられる。唯一谷SV03の一部は人為的に掘削したと考えられ、古墳の周溝である可能性がある。谷SV03は調査区外へと続き、古墳の周溝が尾根上に残存している可能性は考えられる。尾根上に現在あるコンクリートの基礎により攪乱されていると推定されるので、調査は行わなかった。

鈴鹿市内の5世紀後半から6世紀にかけての古墳で使用される埴輪の底部は「淡輪技法」によるものが主流を占める。その中で稲生古窯跡群と石薬師東古墳群出土の埴輪は「淡輪技法」による埴輪はごくわずかで、従来の技法による底部を持つものや底部を切り取るものが多い。底部だけでなく、円筒埴輪や朝顔形埴輪の口縁部、突帯の形状、調整方法など類似点が多く、稲

生古窯跡群から供給された可能性が高いと思われる。今回出土した埴輪と、報告されている稲生1・2号窯出土の埴輪を比較すると口縁部や突帯の形状に類似点はあるが、朝顔形埴輪の口縁端部の細部の形状や肩部の調整の方向などが異なる。鈴鹿市考古博物館所蔵の採集資料は稲生古窯跡群3号窯のものと考えられているが、円筒埴輪の突帯の形状、朝顔形埴輪の口縁部や頸部の形状や焼成など今回の調査で出土した埴輪との類似点が多い。3号窯の位置は、甲懸Ⅱ遺跡の近隣に推定されており、今回の調査で出土した埴輪は3号窯で生産された可能性が高いと考えられる。

甲懸Ⅱ遺跡には稲生3号窯に関連が深い古墳、もしくは須恵器・埴輪生産に関連した工房が存在していたものと考えられる。

### 【参考文献】

- 小玉道明 1996「三重県鈴鹿市稲生山古窯址群発掘調査報告」『研究紀要』第5号 三重県埋蔵文化財センター
- 穂積裕昌・小菅文裕 1995『一般国道23号中勢道路(6工区)建設事業に伴う南谷遺跡・稲生遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター
- 穂積裕昌 2001「伊勢の埴輪生産～淡輪系と在来系(非淡輪系)～」『研究紀要』第10号 三重県埋蔵文化財センター
- 豊田祥三 2001「伊勢における円筒埴輪の生産と展開」『研究紀要』第10号 三重県埋蔵文化財センター
- 一瀬和夫 1992「古市古墳群における埴輪群の変遷」『究班』埋蔵文化財研究会
- 一瀬和夫 2004「円筒埴輪」『考古資料大観4 弥生・古墳時代埴輪』小学館
- 服部芳人 2000『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡』三重県埋蔵文化財センター

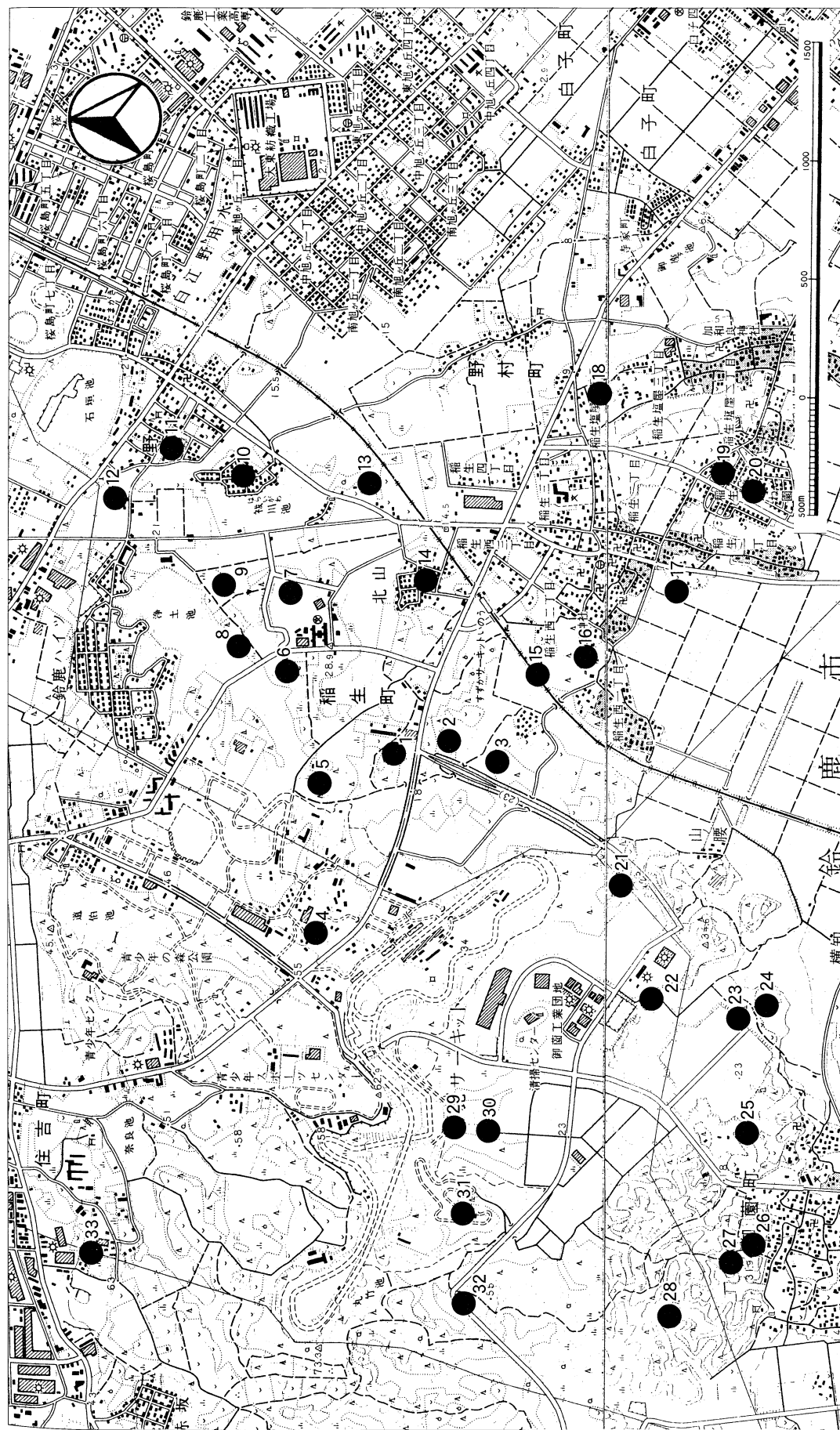
Tab.1 埴輪観察表

図版番号	種別	出土地点	外面調整		内面調整	口縁部 突帯の 形状	色調	胎土	焼成	備考
			一次調整	二次調整						
1	円筒	G-15 SV03 最下層	タデハケ	—	—	II	2.5Y6/1	密 砂粒を含む	須恵質	
2	円筒	E-4 SV01 最下層	タデハケ	ヨコハケ	ヨコハケ	I	10YR5/1	密 砂粒を含む	須恵質	
3	円筒	H-10	タデハケ	ヨコハケ	ヨコハケ	I	2.5Y6/1	密 砂粒を含む	須恵質	
4	円筒	F-5 SV01 最下層	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	2.5Y8/4	密 砂粒を含む	硬質	
5	円筒	F-4 SV01 最下層	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	10YR8/4	密 砂粒を多く含む	硬質	
6	円筒	C-5 SV01 最下層	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	10YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	
7	円筒	E-4 SV01	—	B種ヨコハケ	ヨコハケ	I	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質	
8	円筒	SV01	タデハケ	ヨコハケ	ヨコハケ	I	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
9	円筒	C-6 SV01 下層	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	7.5YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質(やや硬質)	推定口径 31.2cm
10	円筒	F-6 検出	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	7.5YR7/4	密	硬質	
	円筒	G-11 SV02 最下層	—	—	—	—	—	—	—	
11	円筒	F-5 SV01	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	土師質	
12	円筒	G-7 検出	—	—	ヨコハケ	I	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
13	円筒	G-7	—	—	ヨコハケ	I	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
	円筒	F-7	—	—	—	—	—	—	—	
14	円筒	F-5 SV01	—	ヨコハケ	ヨコハケ	I	7.5YR7/3	密	硬質	
15	円筒	D-15	—	—	—	III	10YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	推定口径 29cm
16	円筒	G-11 SV02 最下層	タデハケ	—	—	III	7.5YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質(やや硬質)	
17	円筒	H-17 下層	—	—	—	III	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
18	円筒	C-15 SV05 中層	—	—	—	III	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
19	円筒	E-4 SV01 最下層	—	—	—	III	7.5YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
20	円筒	F-4 SV01 下層	—	—	—	III	7.5YR8/4	密	土師質	
21	円筒	H-10 SV02 最下層	—	—	—	III	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
22	円筒	H-10 SV02 最下層	—	—	—	III	7.5YR7/6	やや粗 砂粒を含む	土師質	
23	朝顔	A-7 SV01 中層	ナナメハケ	—	ナナメハケ・ヨコハケ	V	5YR6/4	密 砂粒を多く含む	硬質	
24	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR5/2	密 砂粒を多く含む	硬質	
25	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/4	密	硬質	
26	朝顔	—	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
27	朝顔	G-7	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/4	密	硬質	
28	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ナナメハケ・ヨコハケ	V	5YR5/3	密	硬質	
29	朝顔	G-7	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
30	朝顔	C-6 SV01 中層	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
31	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR5/3	密 砂粒を含む	硬質	
32	朝顔	—	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR5/3	密 砂粒を多く含む	硬質	
33	朝顔	D-4 SV01 最下層	ナナメハケ	—	ヨコハケ	V	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質(やや土師質)	
34	朝顔	C-6 SV01 中層	—	—	—	V	5YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
35	朝顔	C-5 検出	—	—	—	V	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
36	朝顔	F-5 SV01	—	—	—	V	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
37	円筒	J-13 SV03 下層	—	—	—	IV	5YR6/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
38	円筒	D-6 SV01 下層	ナナメハケ	切りとり	指押え, ナデ, ケズリ	—	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質	推定底径 22.4cm
39	円筒	D-4 SV01 最下層	ナナメハケ	切りとり	ナデ	—	10YR6/3	密 砂粒を含む	須恵質	
40	円筒	B-13 SV09 下層	ナナメハケ	切りとり	ケズリ	—	7.5YR6/3	密 砂粒を多く含む	須恵質	
41	円筒	H-10 SV02 最下層	ナナメハケ	切りとり	ナデ	—	10YR6/4	密 砂粒を含む	須恵質	
42	円筒	G-8	ナナメハケ	切りとり	ケズリ	—	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
43	円筒	表土除去	ナナメハケ	切りとり	ケズリ	—	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
44	円筒	E-4 SV01	ナナメハケ	切りとり	ケズリ	—	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
45	円筒	F-4 SV01	ナナメハケ	切りとり	—	—	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
46	円筒	C-5 SV01 最下層	ナナメハケ	切りとり	ナデ	—	10YR8/4	密 砂粒を多く含む	硬質	
47	円筒	C-5 SV01 最下層	タデハケ	切りとり	ナデ	—	10YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	
48	円筒	E-4 SV01 下層	ナナメハケ	切りとり	ケズリ	—	2.5YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	
49	朝顔	F-5 SV01	—	—	—	—	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
50	朝顔	D-15	—	—	—	—	10YR8/4	密 砂粒を多く含む	土師質	
51	朝顔	H-17	—	—	—	—	10YR8/4	密 砂粒を多く含む	土師質	
52	朝顔	D-16 SV05	—	—	—	—	10YR8/4	密 砂粒を含む	土師質	
53	朝顔	E-10 SV02 下層	ナナメハケ	—	ヨコハケ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
54	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ヨコハケ	—	5YR6/3	密 砂粒を含む	硬質(やや須恵質)	※
55	朝顔	F-15 SV03 最下層	ナナメハケ	—	ヨコハケ	Aa	5YR5/3	密 砂粒を含む	硬質(やや須恵質)	
56	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	ヨコハケ→ナナメハケ	Aa	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質(やや軟)	
57	朝顔	B-13 SV09 最下層	ナナメハケ	—	ナナメハケ→ヨコハケ	—	5YR6/8	密 砂粒を含む	硬質	
58	朝顔	H-10 SV02	ナナメハケ	—	ヨコ・ナナメハケ	Aa	5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質(やや軟)	
59	朝顔	G-5 検出	B種ヨコハケ	—	ナデ	Aa	—	密 砂粒を含む	硬質	
60	朝顔	C-15 SV05	—	—	—	B	(黄橙色)	密 砂粒を含む	土師質	
61	朝顔	F-5 SV01	ナナメハケ	—	頸部:ヨコハケ 肩部:ナデ	—	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
62	朝顔	F-12 SV02	ナナメ・ヨコハケ	—	ヨコハケ	—	5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質(やや軟)	
63	朝顔	H-15 SV03 下層	ナナメハケ	—	ヨコハケ	—	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質(やや須恵質)	
64	朝顔	C-11 SV02 最下層	—	—	頸部:ヨコハケ 肩部:ナデ	—	7.5YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
65	朝顔	D-5 SV01 最下層	ナナメハケ	—	ナデ	—	5YR6/3	密 砂粒を含む	硬質(やや須恵質)	※と同一固体の可能性あり
66	朝顔	F-11 SV02 下層	肩部:ナナメハケ	突帯下:ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	推定径 32.4cm 円形透かし
	朝顔	F-5 SV01	—	—	—	—	—	—	—	
67	朝顔	B-13 SV09 下層	肩部:ナナメハケ	突帯下:B種ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
	朝顔	表土除去	—	—	—	—	—	—	—	
	朝顔	表土除去	—	—	—	—	—	—	—	
68	朝顔	F-10 SV02 最下層	肩部:ナナメハケ	突帯下:B種ヨコハケ	—	Aa	5YR7/8	密 砂粒を含む	土師質	
69	朝顔	C-15 SV05	肩部:ナナメハケ	突帯下:B種ヨコハケ	指押さえ・ナデ	Aa	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
70	円筒	B-8	—	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	10YR5/1	密 砂粒を多く含む	須恵質	
71	円筒	E-6 SV01	—	B種ヨコハケ	指押さえ ナデ	Aa	7.5YR6/3	密 砂粒を多く含む	須恵質	
	円筒	G-7	—	—	—	—	—	—	—	
72	円筒	G-7	タデハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR5/2	密 砂粒を含む	須恵質	
73	円筒	F-11 SV02 下層	タデハケ	B種ヨコハケ	ケズリ	Aa	10YR5/2	密 砂粒を少量含む	須恵質	
74	円筒	F-5 検出	タデハケ	B種ヨコハケ	ナデ	—	10YR5/2	密 砂粒を含む	須恵質	円形透かし
75	円筒	F-5 SV01	タデハケ	B種ヨコハケ	ナデ	—	7.5YR5/2	密 砂粒を多く含む	須恵質	円形透かし
76	円筒	D-6 SV01	タデハケ	B種ヨコハケ	ナデ	—	7.5YR6/3	密 砂粒を含む	須恵質	

図版番号	種別	出土地点	外面調整		内面調整	口縁部 突帯の 形状	色調	胎土	焼成	備考
			一次調整	二次調整						
77	円筒	F-4 SV01	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	—	10YR5/2	密 砂粒を含む	須恵質	
78	円筒	D-4 SV01 最下層	—	B種ヨコハケ	ナデ	Ab	10YR7/3	密 砂粒を含む	須恵質	
79	円筒	E-4 SV01 最下層	—	ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR6/2	密 砂粒を含む	硬質 (やや須恵質)	
80	円筒	E-7 SV01	タテハケ	B種ヨコハケ 底 部：切りとり	ナデ	Aa	7.5YR6/4 ~ 7.5YR5/2	密 砂粒を含む	硬質	推定底径 17.8cm 第1段 15.2cm 第2段 9.5cm 原体 7.5cm ~ 8cm 静止痕の間隔 8.3cm
	円筒	SV02								
	円筒	F-11 SV02 最下層								
	円筒	C-12 SV02 最下層								
81	円筒	I-10 検出	—	B種ヨコハケ	指押さえ ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	推定径 25.8cm
	円筒	E-12 SV02 中層								
82	円筒	F-10 SV02	24.8	B種ヨコハケ	指押さえ ナデ	Aa	5YR6/4	密 砂粒を少量含む	硬質	推定径 24.6cm
83	円筒	E-4 SV01 最下層	タテハケ	B種ヨコハケ	指押さえ ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
84	円筒	D-5 SV01 中層	タテハケ	B種ヨコハケ	指押さえ ナデ	Aa	5YR7/4	密 砂粒を含む	硬質	円形透かし
85	円筒	F-11 SV02 最下層	—	ヨコハケ	—	Aa	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
86	円筒	E-6 SV01	—	ヨコハケ	—	Aa	7.5YR7/4	密 砂粒を多く含む	硬質	
87	円筒	F-5 SV01	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR6/4	密 砂粒を多く含む	硬質	
88	円筒	L-13 SV03 最下層	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR7/6	密 砂粒を多く含む	硬質	
89	円筒	F-9 SV02 下層	タテハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質 (やや須恵質)	
90	円筒	H-11 SV02 下層	タテハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	円形透かし
91	円筒	E-10 SV02 下層	—	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を少量含む	硬質	
92	円筒	F-4 SV01	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質 (やや土師質)	
93	円筒	B-6 SV01 中層	タテハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
94	円筒	F-5 SV01	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質 (やや土師質)	円形透かし
95	円筒	G-7	—	B種ヨコハケ	—	Aa	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質 (やや土師質)	
96	円筒	H-9 検出	—	ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	円形透かし
97	円筒	J-15 SV03 下層	—	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	7.5YR8/4	密 砂粒を含む	硬質 (やや土師質)	
98	円筒	C-6 SV01 下層	タテハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	10YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	
99	円筒	F-5 SV01	タテハケ	ヨコハケ	ナデ	Aa	10YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	円形透かし
100	円筒	E-4 SV01 下層	—	ヨコハケ	ナデ	Aa	10YR8/3	密 砂粒を含む	硬質	推定径 30cm 円形透かし
101	円筒	K-13 SV03 下層	—	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	10YR8/4	密 砂粒を少量含む	硬質	円形透かし
102	円筒	G-10 SV02	タテハケ	B種ヨコハケ	ナデ	Aa	2.5YR8/4	密 砂粒を含む	硬質	推定径 25.6cm
103	円筒	D-15	—	—	—	B	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
104	円筒	D-15	—	—	—	B	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
105	円筒	H-17 下層	—	—	粘土積上痕残る	B	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
106	円筒	E-11 SV02 中層	—	—	粘土積上痕残る	B	10YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
	円筒	G-17 下層								
107	円筒	包含層	—	—	—	B	10YR8/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
108	円筒	D-16 SV05 下層	—	—	粘土積上痕残る	B	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
109	円筒	C-15 SV05	—	—	—	B	10YR8/6	密 砂粒を多く含む	土師質	推定径 23.8m
110	円筒	C-6 SV01 下層	—	—	—	B	10YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
111	円筒	B-14 SV06 上層	—	B種ヨコハケ	—	B	10YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	推定径 32cm
112	円筒	D-6 SV01 下層	—	ヨコハケ	—	Ab	7.5YR6/8	密 砂粒を多く含む	土師質	
113	円筒	H-12 SV02 下層	—	ヨコハケ	ナデ	Ab	7.5YR8/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
114	円筒	A-4 SV01 下層	—	ヨコハケ	ナデ	Ab	5YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質	推定径 25cm
115	円筒	Y-13	—	—	—	Ab	2.5YR6/8	密 砂粒を多く含む	土師質	
116	円筒	G-10 SV02 最下層	—	ヨコハケ	ナデ	Ab	7.5YR7/6	密 砂粒を多く含む	土師質	
117	円筒	F-4 SV01	—	B種ヨコハケ	—	Ab	2.5YR8/3	密 砂粒を多く含む	土師質	推定径 24.4cm

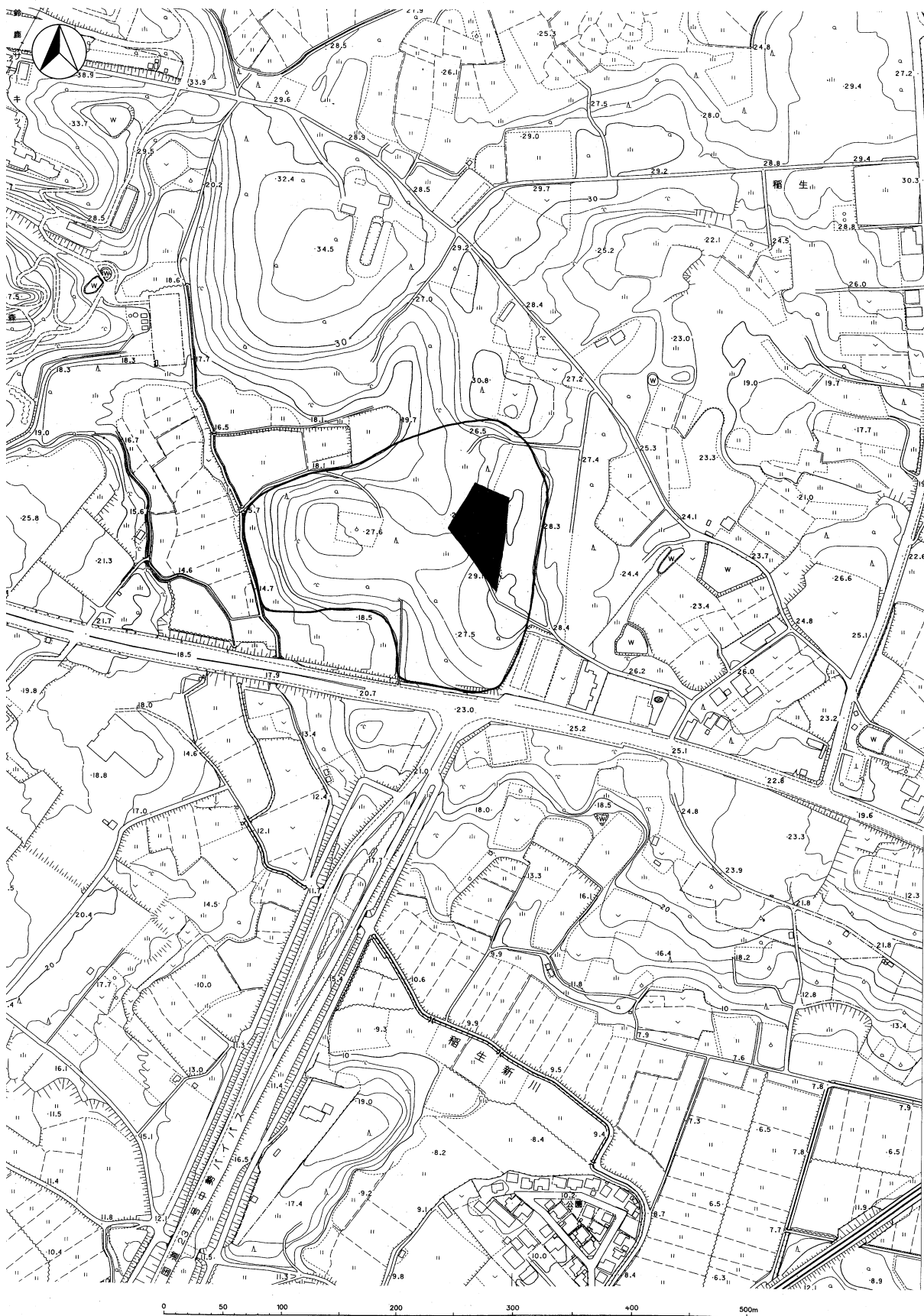
図版番号	種別	出土地点	色調	胎土	焼成	備考
134	家	H-11 SD02 最下層	2.5Y8/4	密 砂粒を含む	土師質	
135	家	I-10 検出	10YR8/3	密 砂粒を含む	土師質	線刻あり
136	家	B-13 下層	2.5Y8/3	密	土師質	
137	家	F-5 SV01	10YR8/3	密 砂粒を含む	土師質	
138	家	G-7	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質 (やや軟)	
139	家	F-7 SV01	10YR8/4	密 砂粒を含む	土師質	
140	家	F-5 SV01	2.5Y8/4	密 砂粒を含む	土師質	
141	家	G-5 SV01	5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質	
142	家	C-6 検出	5YR6/8	密 砂粒を含む	土師質	
143	家	F-7 SV01	10YR8/4	密 砂粒を含む	土師質	
144	人物	F-4 SV01	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	髻
145	人物	C-5 SV01	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	首?
146	人物	F-5 SV01	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	腕
147	人物	C-6 SV01 最下層	7.5YR5/2	密 砂粒を含む	硬質 (やや須恵質)	衣服?
148	人物	A-14 下層	7.5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	衣服? 全体的に磨耗する
149	人物	表土除去	5YR7/8	密 砂粒を含む	土師質	衣服?
150	人物	G-7	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	衣服?
151	人物	G-7 SV01	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	衣服?
152	人物	A-10 攪乱	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	衣服?
153	馬	C-7 SV01 下層	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	障泥?
154	馬	F-5 SV01	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質 (やや軟)	障泥?
155	不明	D-4 SV01 下層	5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	障泥?
156	馬	F-5 SV01	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	障泥?
157	不明	D-4 SV01 下層	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	硬質	腕?脚?
158	不明	F-7 SV01	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
159	不明	I-7 検出	5YR5/3	密 砂粒を含む	硬質 (やや須恵質)	線刻あり
160	不明	G-7	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	線刻あり
161	不明	I-10 検出	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
162	不明	D-7	7.5YR5/2	密 砂粒を含む	硬質 (やや須恵質)	
163	馬	F-6 SV01	7.5YR8/6	密 砂粒を含む	土師質	
164	不明	F-4 SV01	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質 (やや軟)	
165	不明	F-6 検出	5YR6/4	密 砂粒を含む	硬質	
	不明	F-5 SV01				
166	不明	表土除去	5YR6/6	密 砂粒を含む	硬質	
167	不明	E-4 SV01 最下層				
168	不明	A-12 SV02	7.5YR7/6	密 砂粒を含む	土師質	
169	不明	E-5 SV01	2.5Y8/4	密 砂粒を含む	土師質	





- 1. 甲懸Ⅱ遺跡 2. 甲懸Ⅰ遺跡 3. 稻生遺跡 4. 稻生1・2号窯 5. 山脇遺跡 6. 野田遺跡 7. 池ノ下Ⅰ遺跡 8. 浄土池遺跡 9. 池ノ下Ⅱ遺跡
- 10. 祓山遺跡 11. 大新田遺跡 12. 西山遺跡 13. 北野遺跡 14. 北山古墳群 15. 伊奈富遺跡 16. 伊奈富神社遺跡 17. 稻生城跡 18. 今村A遺跡
- 19. 稻生河内浦遺跡 20. 稻生中村遺跡 21. 南谷遺跡 22. 野田口古墳群 23. 高井A遺跡 24. 高井B遺跡 25. 大塚山古墳 26. 権現山古墳
- 27. 岩ノ谷古墳 28. 池ノ杭古墳群 29. 一本松古墳群 30. 坂本山古墳 31. 鎌谷古墳群 32. 奥山田古墳 33. 奈良池古墳

周辺の遺跡(1:25,000)[国土地理院発行 鈴鹿による]



調査区位置図(1:5,000)

X=-128380

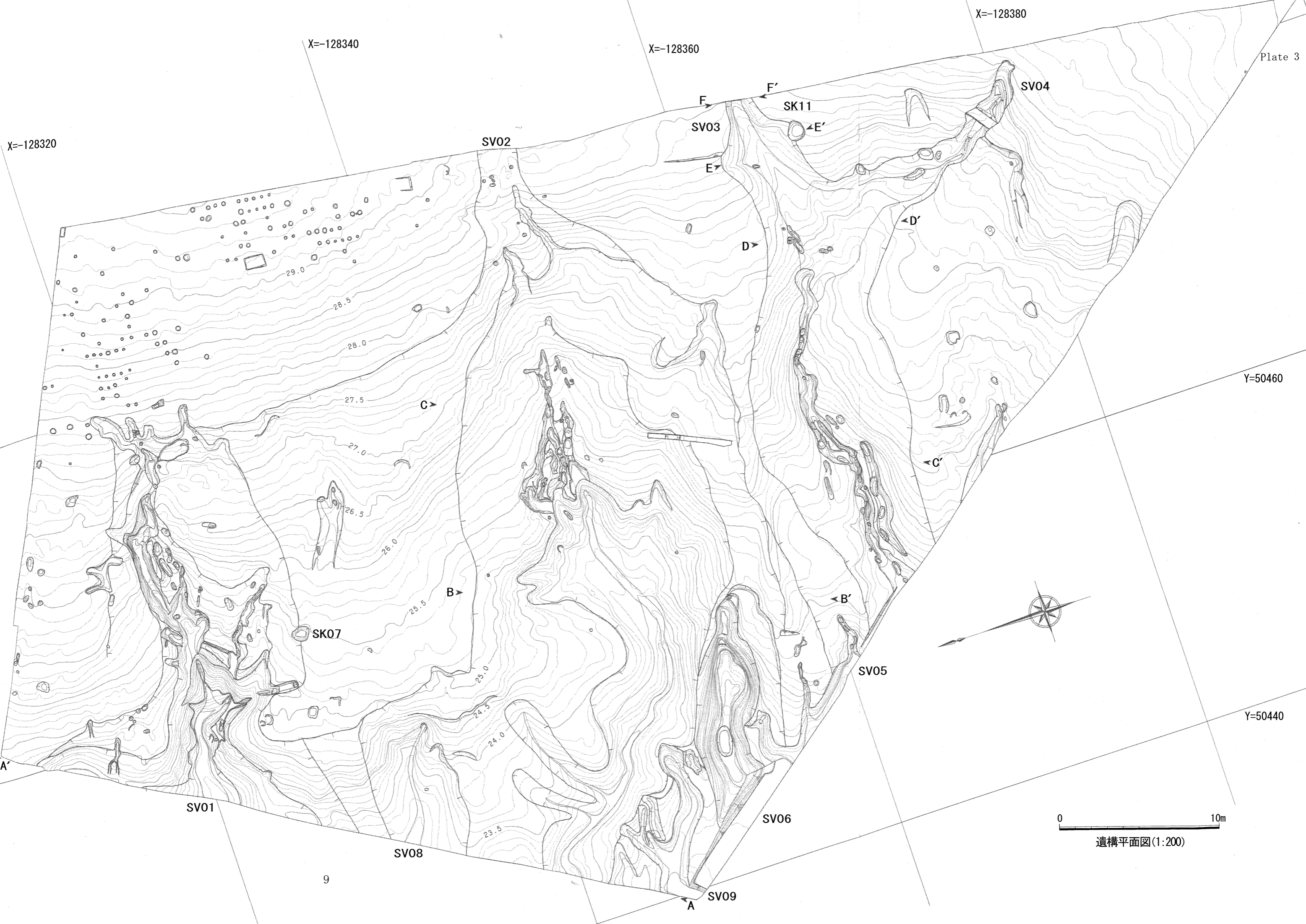
X=-128360

X=-128340

X=-128320

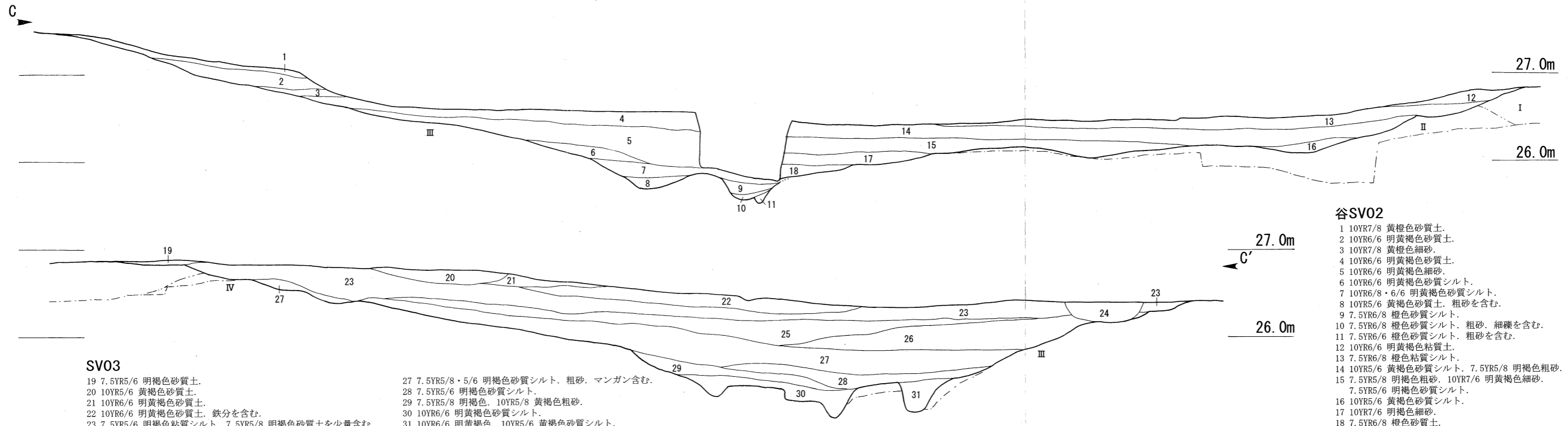
Y=50460

Y=50440



遺構平面図(1:200)





**SV03**

- 19 7.5YR5/6 明褐色砂質土.
- 20 10YR5/6 黄褐色砂質土.
- 21 10YR6/6 明黄褐色砂質土.
- 22 10YR6/6 明黄褐色砂質土. 鉄分を含む.
- 23 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト. 7.5YR5/8 明褐色砂質土を少量含む.
- 24 7.5YR5/6 明褐色細砂.
- 25 10YR5/8・5/6 黄褐色砂質土.
- 26 7.5YR5/8 明褐色粗砂.

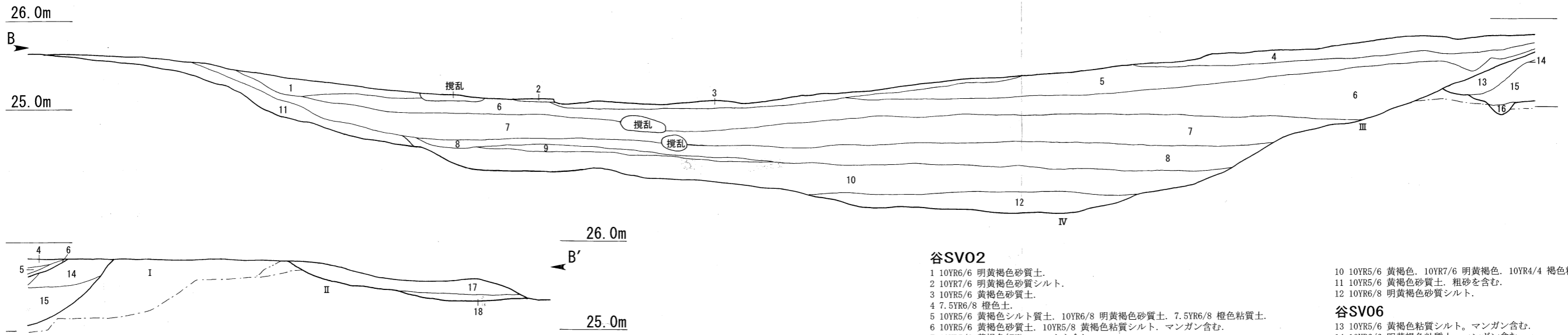
- 27 7.5YR5/8・5/6 明褐色砂質シルト. 粗砂. マンガン含む.
- 28 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト.
- 29 7.5YR5/8 明褐色. 10YR5/8 黄褐色粗砂.
- 30 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト.
- 31 10YR6/6 明黄褐色. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト.

**谷SV02**

- 1 10YR7/8 黄褐色砂質土.
- 2 10YR6/6 明黄褐色砂質土.
- 3 10YR7/8 黄褐色細砂.
- 4 10YR6/6 明黄褐色砂質土.
- 5 10YR6/6 明黄褐色細砂.
- 6 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト.
- 7 10YR6/8・6/6 明黄褐色砂質シルト.
- 8 10YR5/6 黄褐色砂質土. 粗砂を含む.
- 9 7.5YR6/8 橙色砂質シルト.
- 10 7.5YR6/8 橙色砂質シルト. 粗砂. 細礫を含む.
- 11 7.5YR6/6 橙色砂質シルト. 粗砂を含む.
- 12 10YR6/6 明黄褐色粘質土.
- 13 7.5YR6/8 橙色粘質シルト.
- 14 10YR5/6 黄褐色砂質シルト. 7.5YR5/8 明褐色粗砂.
- 15 7.5YR5/8 明褐色粗砂. 10YR7/6 明黄褐色細砂.
- 16 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト.
- 17 10YR7/6 明褐色細砂.
- 18 7.5YR6/8 橙色砂質土.

**地山**

- I 7.5YR6/8 橙色砂質シルト.
- II 10YR6/6 明黄褐色. 10YR5/6 黄褐色粘質シルト.
- III 7.5YR 5/8 明褐色. 10YR7/8 黄褐色粗砂.
- IV 10YR7/3 に近い黄褐色. 7.5YR5/8 明褐色粘質シルト.



**谷SV02**

- 1 10YR6/6 明黄褐色砂質土.
- 2 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト.
- 3 10YR5/6 黄褐色砂質土.
- 4 7.5YR6/8 橙色土.
- 5 10YR5/6 黄褐色シルト質土. 10YR6/8 明黄褐色砂質土. 7.5YR6/8 橙色粘質土.
- 6 10YR5/6 黄褐色砂質土. 10YR5/8 黄褐色粘質シルト. マンガン含む.
- 7 10YR5/6 黄褐色細砂. シルトを含む.
- 8 10YR5/8 黄褐色砂質土.
- 9 10YR4/4 褐色砂質土. 粗砂を多く含む. 粘土の粒を含む.

- 10 10YR5/6 黄褐色. 10YR7/6 明黄褐色. 10YR4/4 褐色粗砂.
- 11 10YR5/6 黄褐色砂質土. 粗砂を含む.
- 12 10YR6/8 明黄褐色砂質シルト.

**谷SV06**

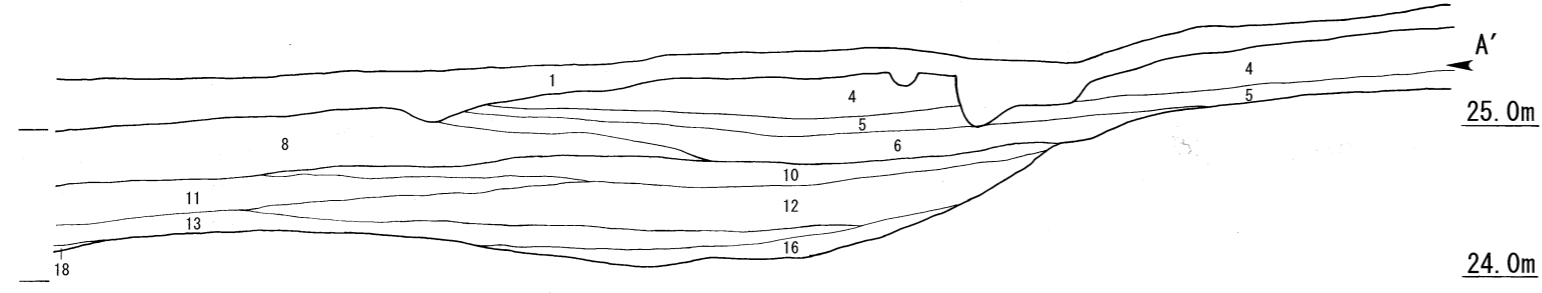
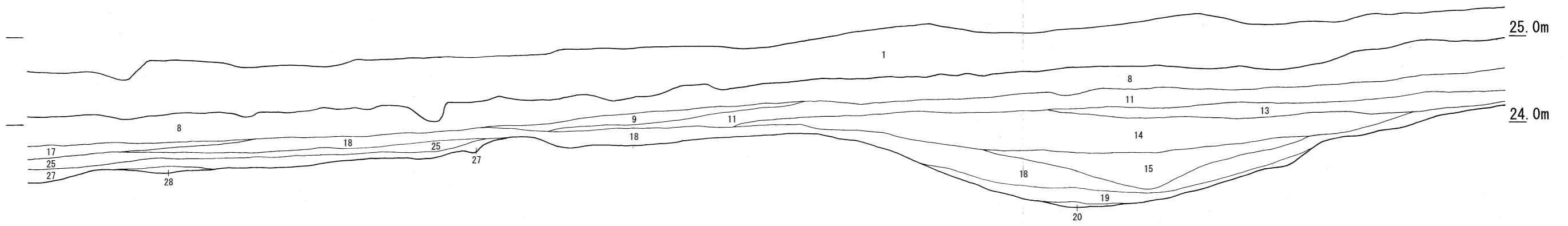
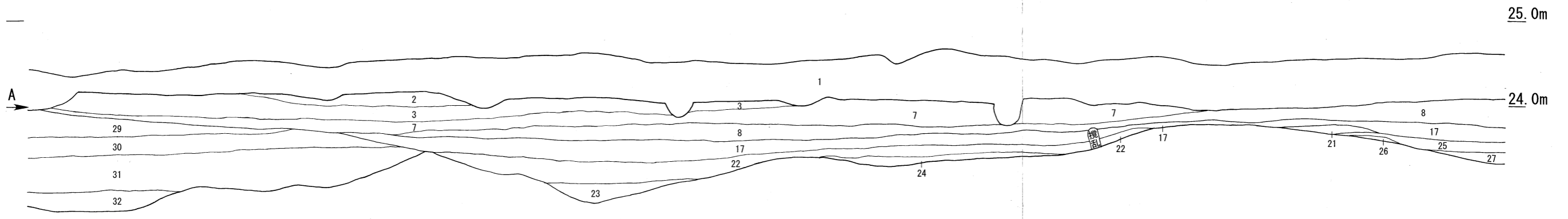
- 13 10YR5/6 黄褐色粘質シルト. マンガン含む.
- 14 10YR6/6 明黄褐色粘質土. マンガン含む.
- 15 10YR6/6 明黄褐色. 7.5YR5/8 明褐色粘質土. 砂粒・炭化物を含む.
- 16 7.5YR6/8 橙色粗砂.

**谷SV05**

- 17 7.5YR6/8 橙色粘質土. 粗砂を含む.
- 18 7.5YR6/8 橙色粘質土.



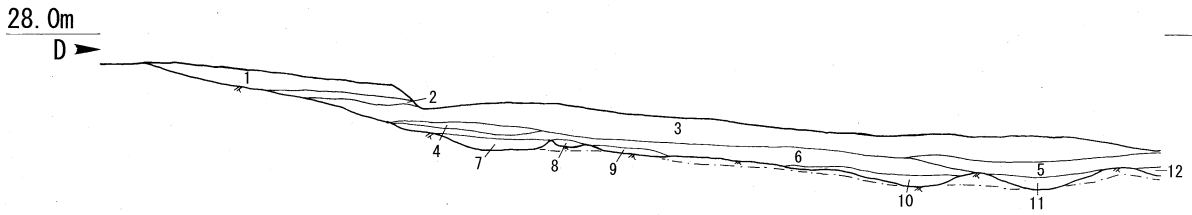
谷SV02・SV03・SV05・SV06断面図(1:50)



- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土。表土。
- 2 10YR4/6 褐色砂質シルト。
- 3 10YR5/8 黄褐色粘質シルト。粗砂を含む。
- 4 10YR7/6 明黄褐色砂質シルト。
- 5 10YR5/8 黄褐色砂質土。
- 6 10YR4/6 褐色砂質土。
- 7 10YR5/8 黄褐色。10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土。粗砂を含む。
- 8 10YR5/4 にぶい黄褐色。10YR5/6 黄褐色・10YR6/6 明黄褐色砂質土。
- 9 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト。
- 10 10YR5/8 黄褐色砂質土。細礫を含む。
- 11 10YR4/6 褐色。10YR6/6 明黄褐色砂質土。2.5Y7/3 浅黄色・10YR6/6 明黄褐色砂質シルト。
- 12 10YR5/8 黄褐色砂質土。粗砂を含む。
- 13 10YR6/6 明黄褐色砂質土。10YR5/8 黄褐色粘質シルト。10YR5/6 黄褐色砂質土。粗砂を含む。
- 14 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト。10YR4/6 褐色砂質シルトが混ざる。マンガンを含む。
- 15 5Y7/1 灰白色シルト。マンガンを含む。
- 16 10YR5/6 黄褐色粗砂。
- 17 10YR5/6 黄褐色シルト質土。10YR6/6 明黄褐色・10YR7/4 にぶい黄褐色粘質シルト。10YR6/6 明黄褐色砂質シルト。
- 18 10YR6/6 明黄褐色。10YR5/6 黄褐色粘質土。/2.5Y8/3 淡黄色粘質シルト・10YR6/6 明黄褐色・7.5YR5/8 明褐色シルト。粗砂。鉄分含む。
- 19 10YR7/4 にぶい黄褐色。2.5Y8/3 淡黄色シルト。10YR5/6 黄褐色砂質シルト。
- 20 10YR4/6 褐色。2.5Y8/3 淡黄色シルト。
- 21 10YR7/6 にぶい黄褐色粘質シルト。
- 22 10YR4/6 褐色粗砂。10YR6/6 明黄褐色・7.5YR6/4 にぶい橙色。10YR7/6 にぶい黄褐色シルト・10YR5/8 黄褐色粘質シルト。粗砂を含む。
- 23 10YR5/6 黄褐色粘質シルト。
- 24 10YR5/8 黄褐色・7.5YR7/6 橙色粘質シルト。
- 25 10YR5/8 黄褐色・2.5Y7/2 灰黄色。10YR6/6 明黄褐色粘質シルト。
- 26 10YR6/8 明黄褐色粘質シルト。
- 27 2.5Y7/2 灰黄色・10YR5/6 黄褐色・10YR7/4 にぶい黄褐色砂質シルト。10YR5/6 黄褐色粘質シルト。細礫を含む。
- 28 10YR5/6 黄褐色砂質シルト。
- 29 10YR6/6 明黄褐色砂質シルト。
- 30 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト。
- 31 7.5YR5/8 明褐色粘質シルト。細砂を含む。10YR5/8 黄褐色シルト。10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト。2~3cmほどの層状に堆積する。細礫。マンガンを含む。
- 32 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト。マンガン・細礫・細砂を含む。

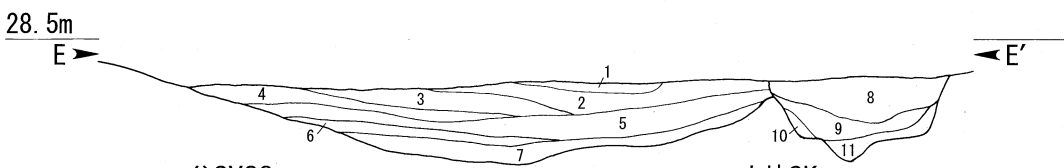


調査区西壁断面図(1:50)



谷SV03・SV004

1. 10YR6/6明黄褐色砂質土.
2. 10YR7/6明黄褐色細砂.
3. 10YR5/8黄褐色砂質土.
4. 10YR7/8黄橙色細砂.
5. 10YR6/8明黄褐色砂質土・10YR6/8明黄褐色粘質シルト
6. 10YR5/8黄褐色砂質土・10YR5/6黄褐色砂質土. 細礫を含む.
7. 10YR5/8黄褐色砂質土. 鉄分・マンガンを含む.
8. 10YR6/8明黄褐色細砂.
9. 7.5YR5/6明褐色砂質土.
10. 10YR5/6明褐色砂質土.
11. 10YR6/8明黄褐色砂質土・10YR5/8黄褐色砂質土.
12. 10YR6/8明黄褐色砂質土.

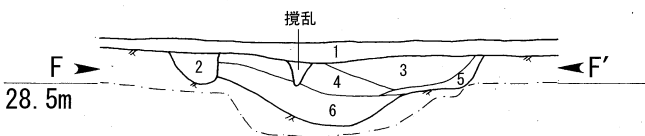


谷SV03

1. 10YR6/6明黄褐色砂質土.
2. 10YR5/6黄褐色砂質土.
3. 10YR6/6明黄褐色砂質土.
4. 7.5YR6/6橙色砂質土.
7. 5YR8/4浅黄橙色砂質土.

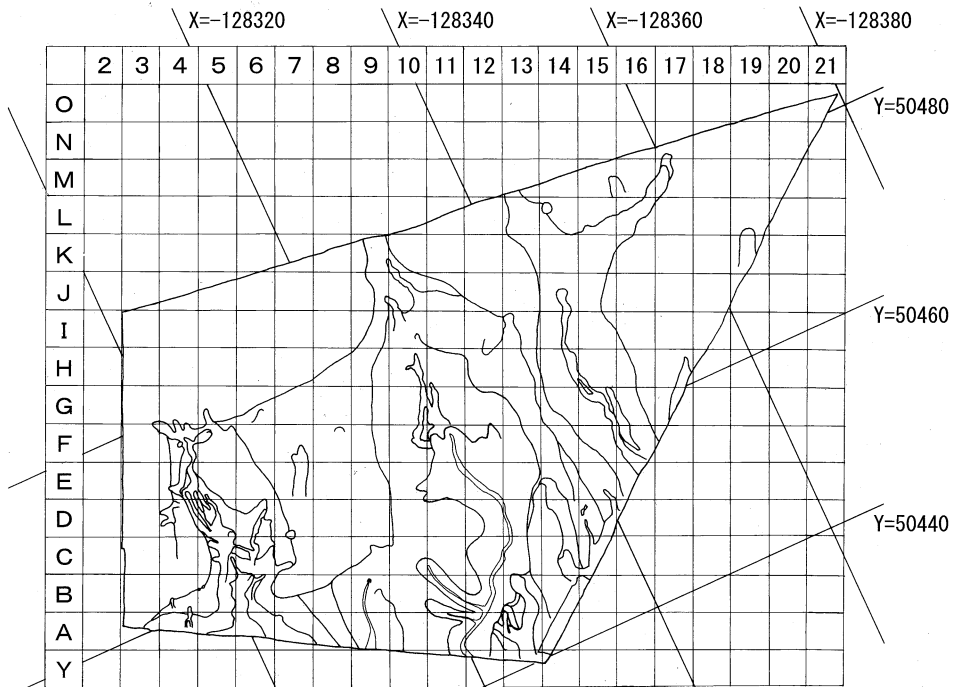
土坑SK

8. 7.5YR6/8橙色砂質土.
- 10YR6/8明黄褐色砂質土.
9. 10YR5/6黄褐色砂質土. 細礫を含む.
10. 10YR5/6黄褐色砂質土.
11. 10YR6/8明黄褐色砂質土.



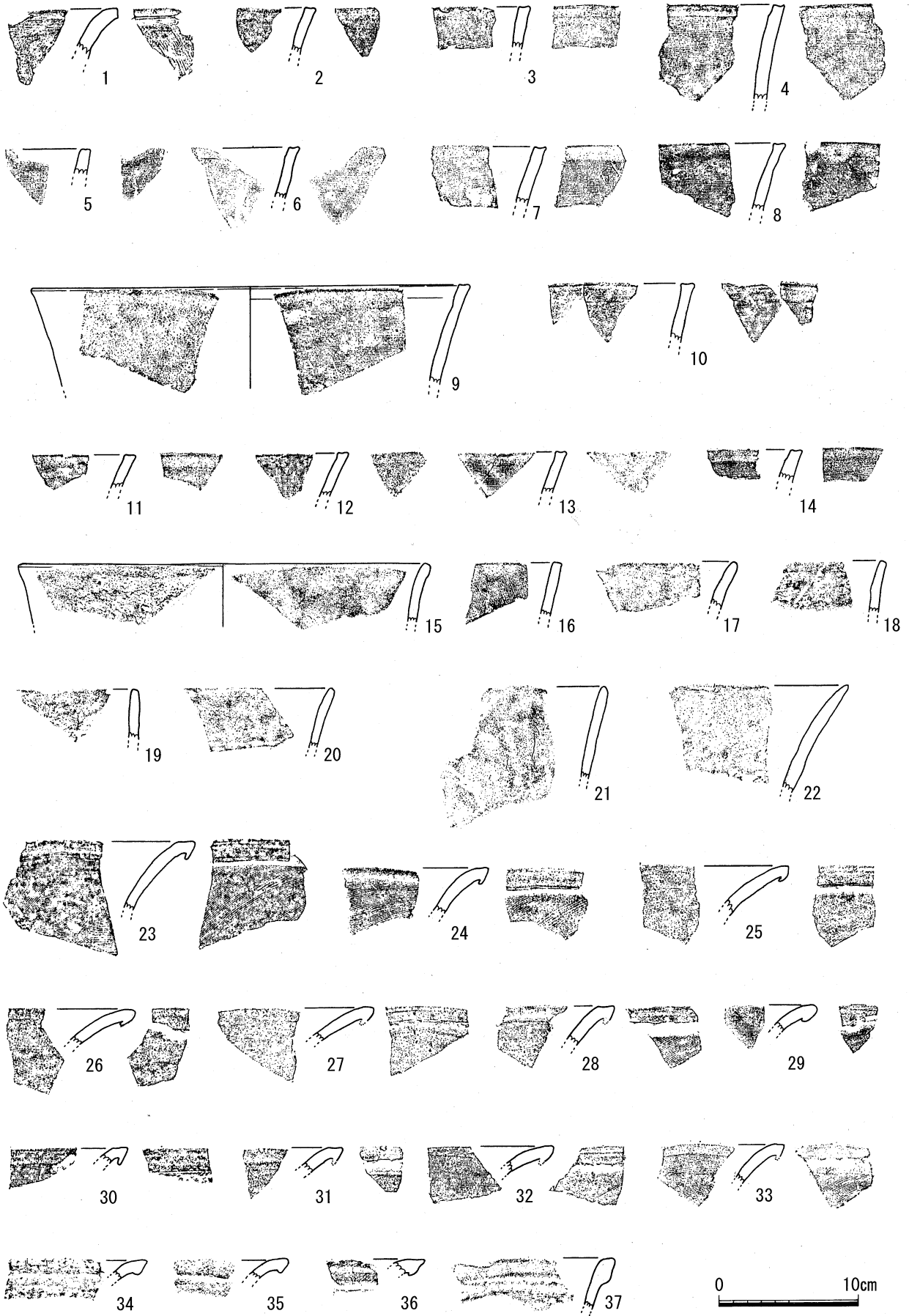
谷SV03

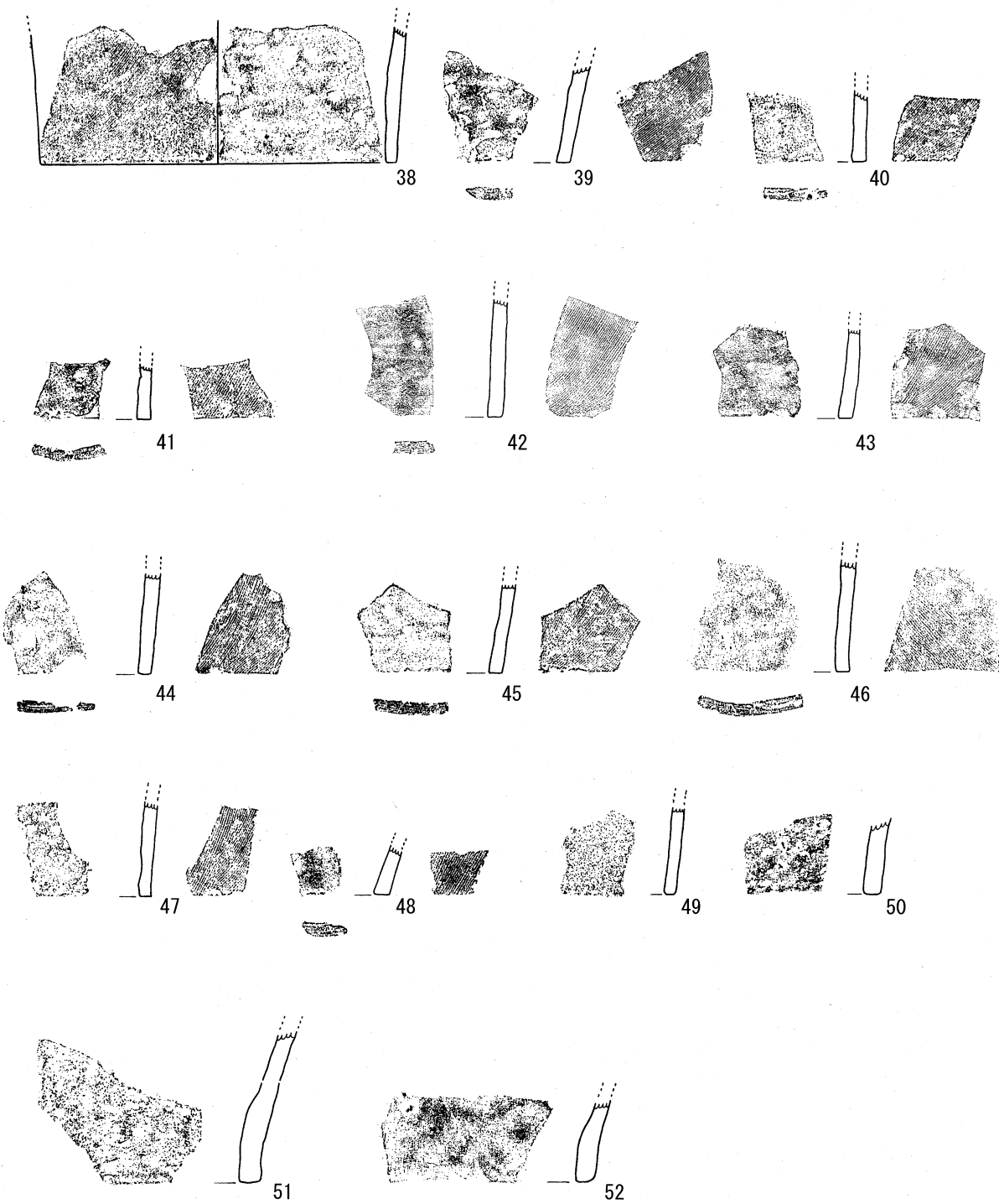
1. 10YR5/6黄褐色砂質土. 細礫・粗砂を含む(表土)
2. 10YR5/6黄褐色砂質土. 細礫を含む.
3. 10YR5/6黄褐色砂質土.
4. 10YR5/8黄褐色砂質土.
5. 10YR5/8黄褐色砂質土.
6. 10YR6/6明褐色砂質土.



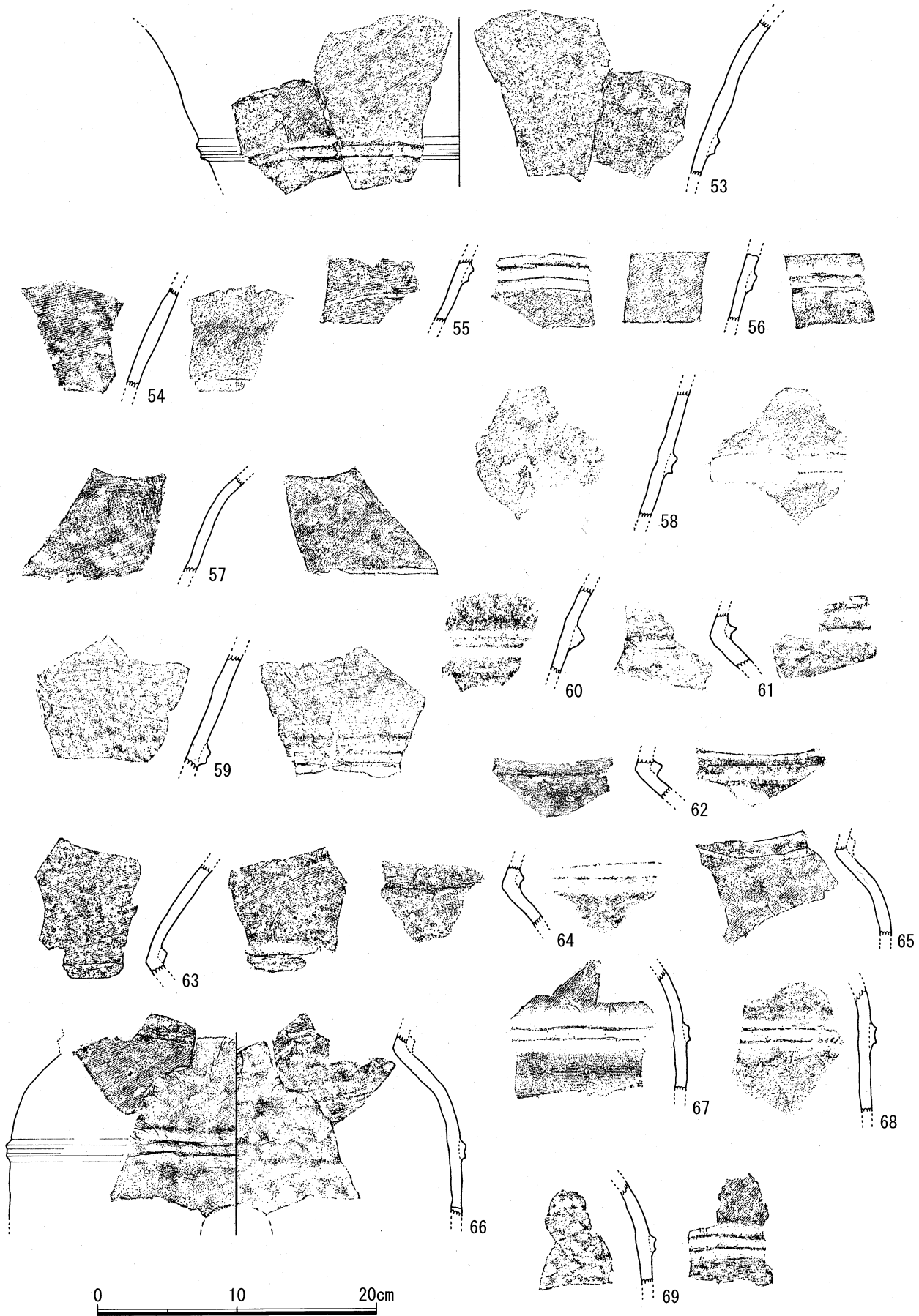
谷SV03・SV04・土坑SK11断面図(1:50) 地区割図(1:800)

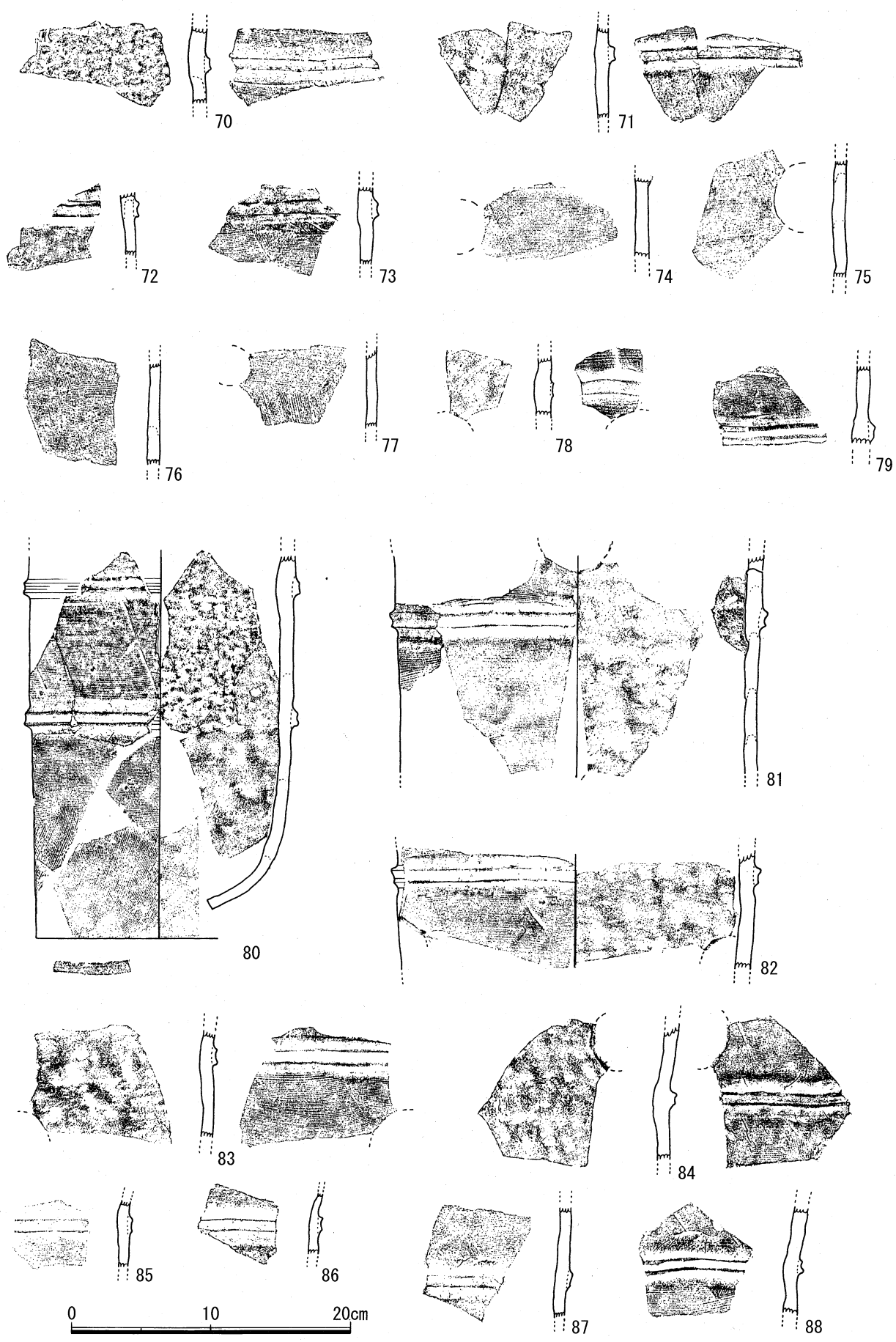




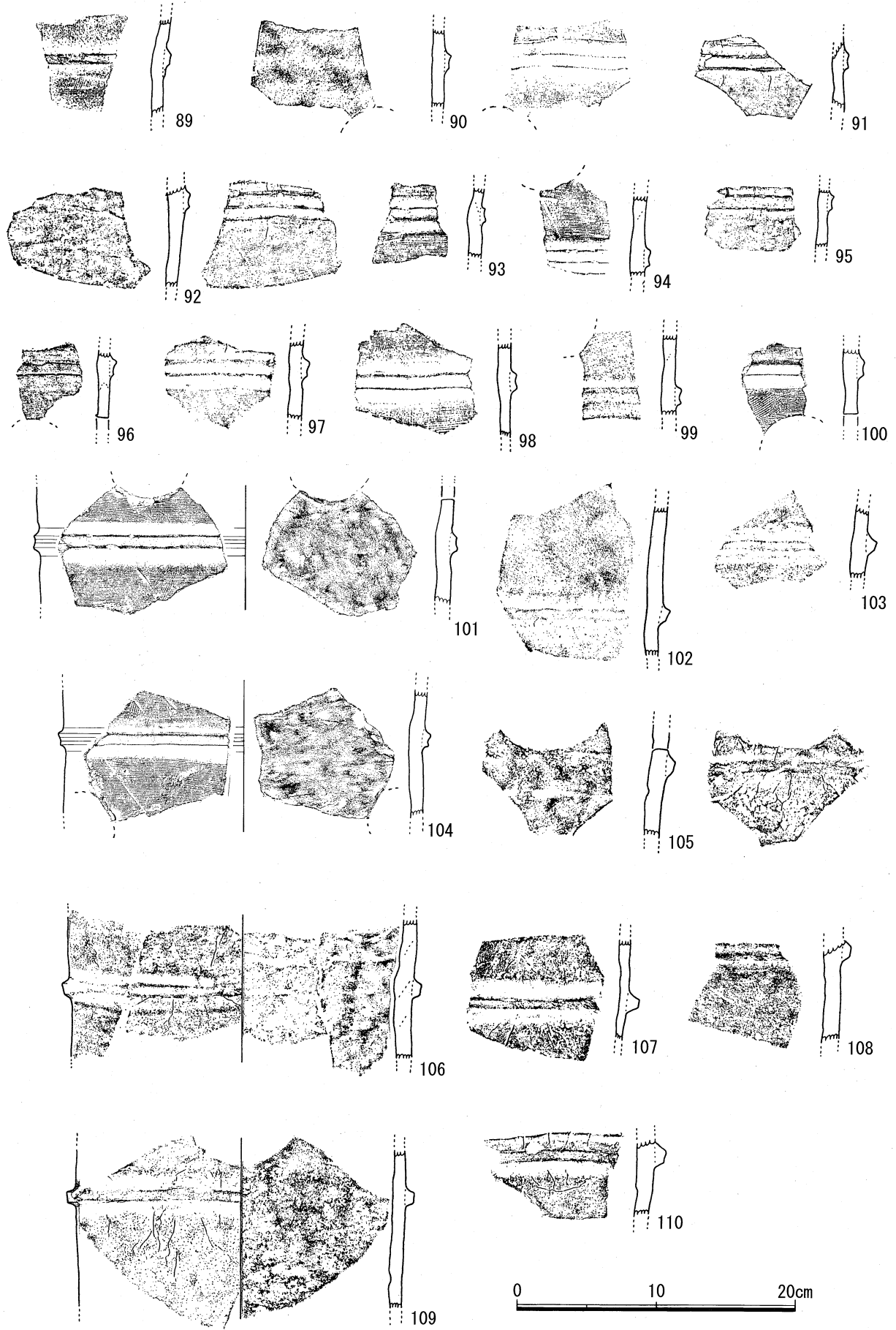


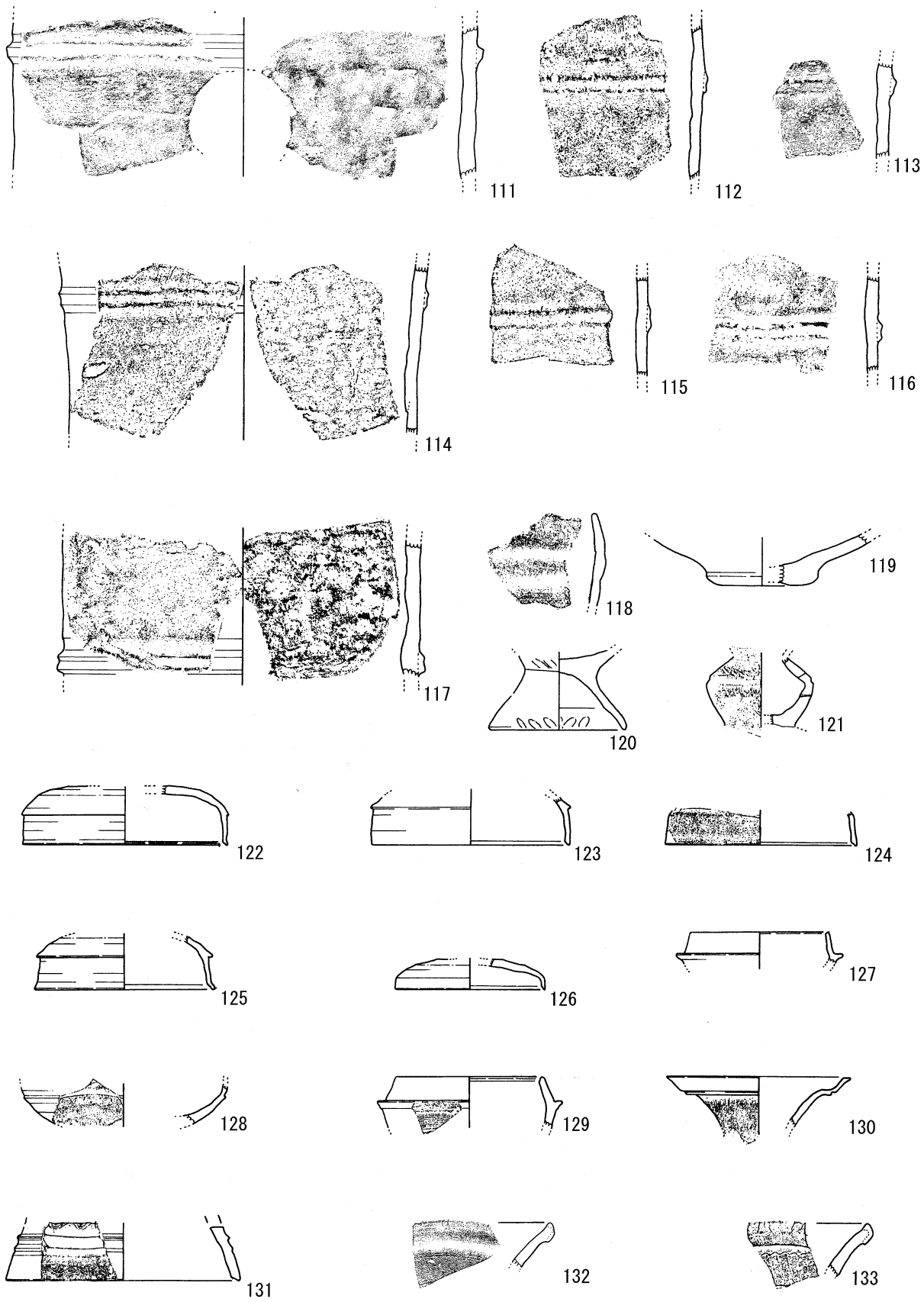
0 10 20cm











0 10 20cm





調査前（南から）



小柱穴（北東から）



谷S V 01（西から）



谷S V 01（西から）



谷S V 01 断面（東から）



谷S V 02（北西から）

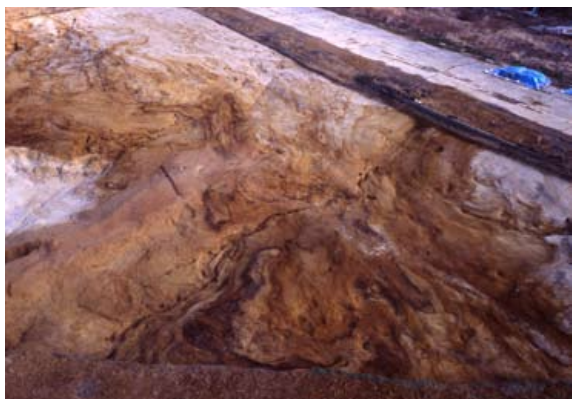


土坑S K 07 断面（東から）



土坑S K 11 断面（西から）





谷S V 03(南西から)



谷S V 03(西から)



谷S V 06(西から)



谷S V 06(西から)



谷S V 06 木出土状況(南から)



谷S V 03 断面(西から)



遺物出土状況(北から)



作業風景(北東から)



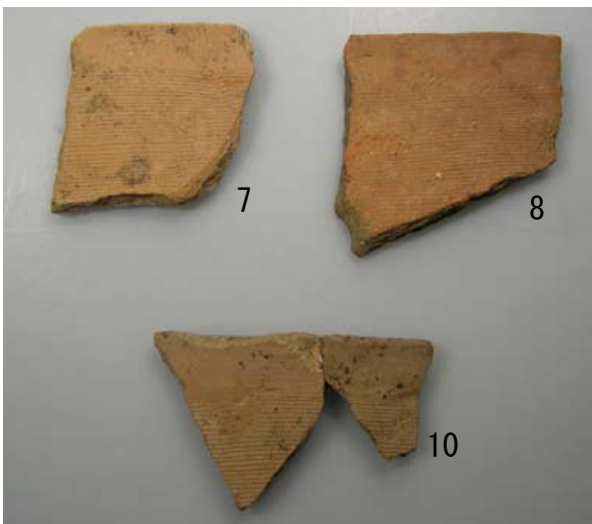
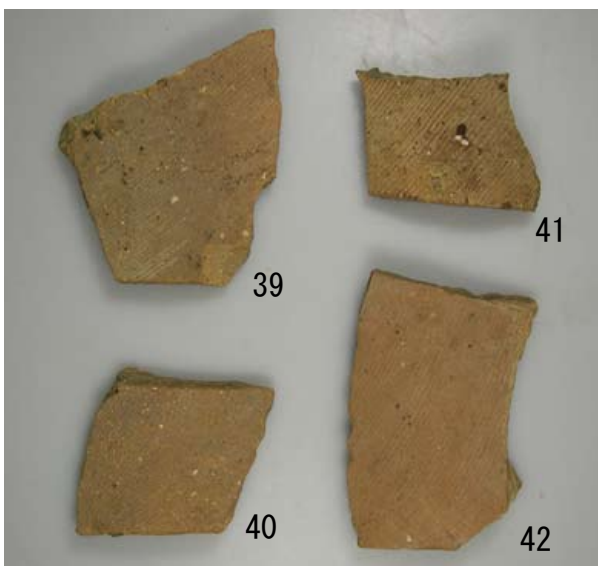
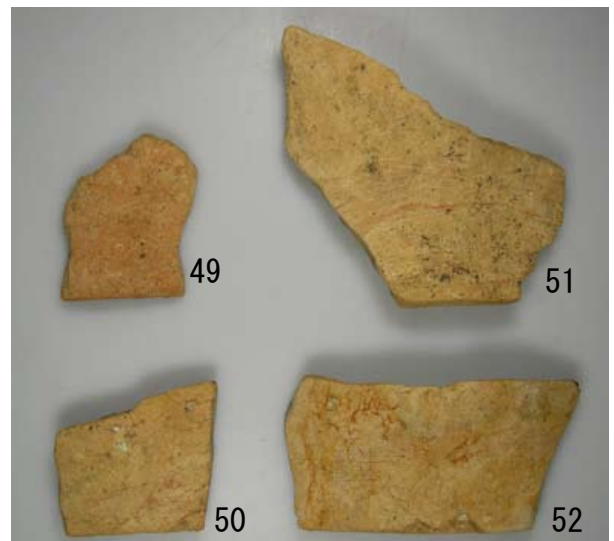
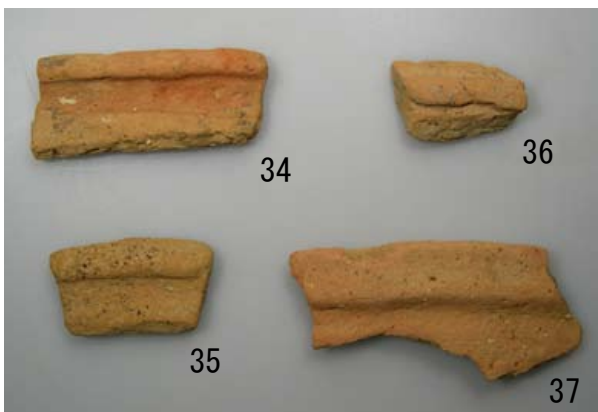
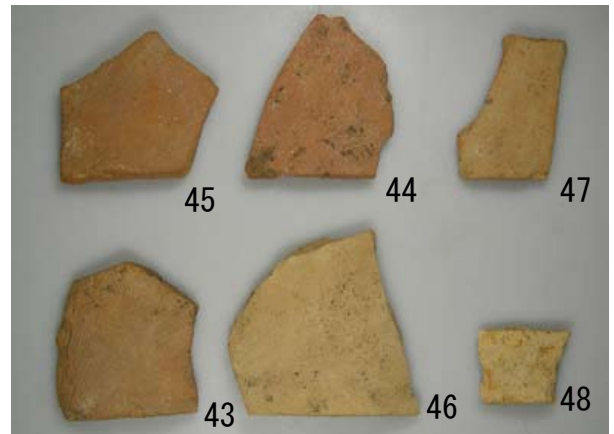


Plate 17









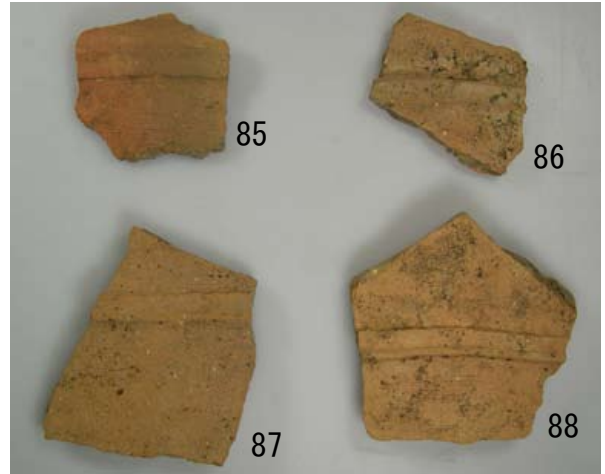
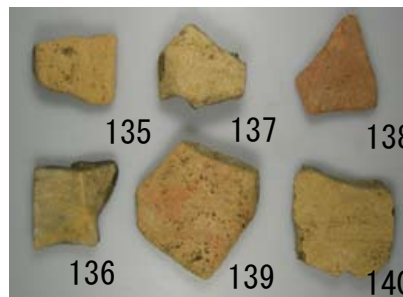






Plate 21



# 甲懸Ⅱ遺跡における自然化学分析

株式会社古環境研究所

## I. 甲懸Ⅱ遺跡の花粉分析

### 1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

### 2. 試料

試料は、自然地形の谷底より出土した堆積物（上：植物遺体を含む砂質土、下：砂とシルト混じりの灰茶色土）2点である。時期は、古墳時代もしくは弥生時代と考えられる。

### 3. 方法

花粉粒の分離抽出は、中村（1973）の方法をもとに、以下の手順で行った。

- 1) 0.5%りん酸三ナトリウム（12水）溶液を加えて15分間湯煎
- 2) 水洗処理の後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
- 4) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水してアセトリシス処理を施す
- 5) 再び氷酢酸を加えて水洗処理
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。

イネ属については、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定しているが、個体変化や類似種もあることからイネ属型とした。

### 4. 結果

#### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉22、樹木花粉と草本花粉を含むもの4、草本花粉5、シダ植物胞子2形態の計33である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は、花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図1に示す。主要な分類群は写真に示した。また、寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕 マキ属、モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、ウルシ属、モチノキ属、ハイノキ属、エゴノキ属、ツツジ科

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科-イラクサ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属-ガマズミ属

〔草本花粉〕 イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕 単条溝胞子、三条溝胞子

#### (2) 花粉群集の特徴

##### 1) 試料下

試料“下”では、花粉はほとんど検出されなかった。

##### 2) 試料上

試料“上”では、樹木花粉の占める割合が草本花粉より高い。樹木花粉では、コナラ属アカガシ亜属を主にスギ、モチノキ属、マツ属複維管束亜属などが出現する。草本花粉では、カヤツリグサ科、イネ属型を含むイネ科、ヨモギ属などが低率で出現する。

### 5. 花粉分析から推定される植生と環境

試料“下”は花粉密度が極めて低い。堆積速度が速く、花粉などの微小遺体が分別作用を受けて堆積されなかったと考えられる。試料“上”は樹木花粉の占める割合が高く、周辺は森林状態であったとみなされる。コナラ属アカガシ亜属を主にシイ属、モチノキ属の照葉樹林、スギ林が分布し、マツ属複維管束亜属も生育していた。他にモチノキ属やマツ属複維管束亜属が多く、ツツジ科、コナラ属コナラ亜属などが生育していた。これらは二次林性の性格ももつことから、土壤の発達しない岩肌の多いような環境や人為干渉を受け土壌条件の悪い乾燥した日当たりのよい環境などの分布が想定される。草本は、カヤツリグサ科、イネ科、ヨモギ属などが谷際のエッジなどに生育していたと考えられる。

### 【参考文献】

- 中村純（1973）花粉分析. 古今書院, p.82-110.  
金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法, 角川書店, p.248-262.  
島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集, 60p.  
中村純（1980）日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.  
中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（*Oryza sativa*）を中心として. 第四紀研究, 13, p.187-193.  
中村純（1977）稲作とイネ花粉. 考古学と自然科学, 第10号, p.21-30.

## II. 甲懸Ⅱ遺跡出土木材の樹種同定

### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質から、概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的隣接の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては、木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

### 2. 試料

試料は、自然地形の谷底より出土した木材4点である。時期は、古墳時代もしくは弥生時代と考えられる。

### 3. 方法

カミソリを用いて試料の横断面（木口と同義）、放射断面（柁目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

### 4. 結果

結果を1に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb. et Zucc. マツ科 図版1・2・3

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急で、垂直樹脂道が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。



以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部，本州，四国，九州に分布する。常緑高木で，高さ40m，径2mに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え，広く用いられる。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* Endl. ヒノキ科 図版4

仮道管，樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで，晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は，ヒノキ型で1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で，1～15細胞高ぐらいである。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州，四国，九州，屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で，通常高さ40m，径1.5mに達する。材は木理通直，肌目緻密で強靱であり，耐朽性，耐湿性ともに高い。良材であり，建築など広く用いられる。

## 5. 所見

同定の結果，4KKG II 出土木材は，アカマツ3点，ヒノキ1点であった。アカマツは，乾燥したやせ地に対する適応性が強く，岩石地，砂丘，荒廃原野などにもよく生育し，二次林も形成する。ヒノキは温帯の中部に多い要素である。遺跡（4KKG II）出土木材は，遺跡周辺に普通に生育し，もたらすことのできる材であったと考えられる。

### 【参考文献】

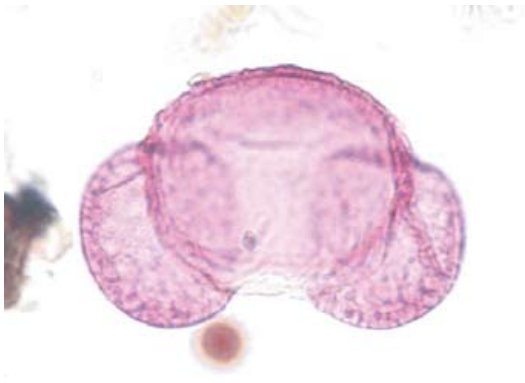
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.20-48。  
 佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞。木材の構造，文永堂出版，p.49-100。  
 島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296  
 山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第1号，植生史研究会，p.242

Tab. 2 谷 SV06 出土資料における花粉分析結果

学名	分類群	和名		甲懸II遺跡	
		上	下	上	下
Arboreal pollen	樹木花粉				
Podocarpus	マキ属	4			
Abies	モミ属	6	1		
Tsuga	ツガ属	2			
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複雑管束亜属	30	5		
Cryptomeria japonica	スギ	65	5		
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	2			
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	7			
Alnus	ハンノキ属	7	1		
Betula	カバノキ属	10			
Corylus	ハシバミ属	3			
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ	7	1		
Castanea crenata	クリ	3	1		
Castanopsis	シイ属	23	5		
Fagus	ブナ属	4			
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	20	1		
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	109	8		
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ	3	1		
Rhus	ウルシ属	3			
Ilex	モチノキ属	41	1		
Symplocos	ハイノキ属	1	1		
Styrax	エゴノキ属	1			
Ericaceae	ツツジ科	7			
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉				
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	3			
Rosaceae	バラ科	13	1		
Leguminosae	マメ科	4	2		
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属	4			
Nonarboreal pollen	草本花粉				
Gramineae	イネ科	14	4		
Oryza type	イネ属型	1			
Cyperaceae	カヤツリグサ科	27	1		
Asteroidae	キク亜科	1			
Artemisia	ヨモギ属	11	2		
Fern spore	シダ植物孢子				
Monolate type spore	単条溝孢子	1			
Trilate type spore	三条溝孢子	24	4		
Arboreal pollen	樹木花粉	358	31		
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	24	3		
Nonarboreal pollen	草本花粉	54	7		
Total pollen	花粉総数	436	41		
Unknown pollen	未同定花粉	2	4		
Fern spore	シダ植物孢子	25	4		
Helminth eggs	寄生虫卵	(-)	(-)		
Digestion rimeins	明らかな消化残渣	(-)	(-)		

Tab. 3 谷 SV06 出土木材の樹種同定結果

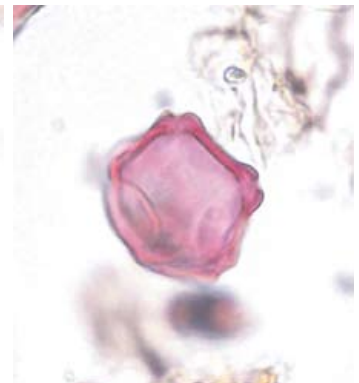
地区名	遺構・層位	年月日	結果 (学名/和名)	
C-14	谷 SV06 最下層	2004.12.20	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ
C-14	谷 SV06 最下層	2005.01.13	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ
C-14	谷 SV06 最下層	2005.01.14	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
D-14	谷 SV06 最下層	2004.12.16	<i>Pinus densiflora</i> Sieb. et Zucc.	アカマツ



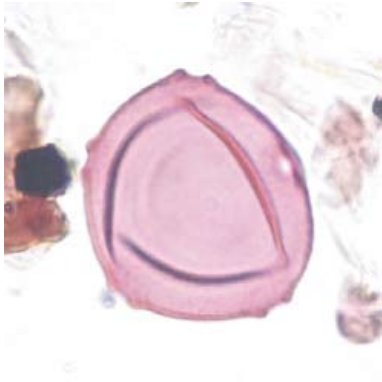
1 マツ属複維管束亜属



2 スギ



3 ハンノキ属



4 クマシデ属-アサダ



5 シイ属



6 コナラ属コナラ亜属



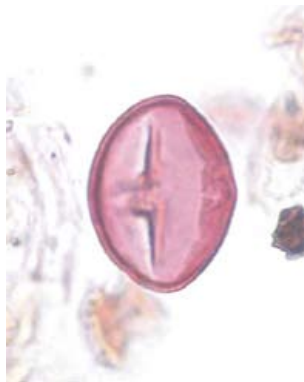
7 コナラ属アカガシ亜属



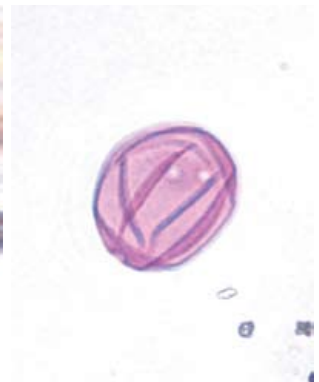
8 モチノキ属



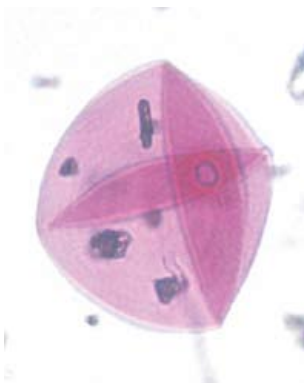
9 ツツジ科



10 バラ科



11 クワ科-イラクサ科



12 イネ科



13 カヤツリグサ科



14 ヨモギ属



15 シダ植物三条溝胞子

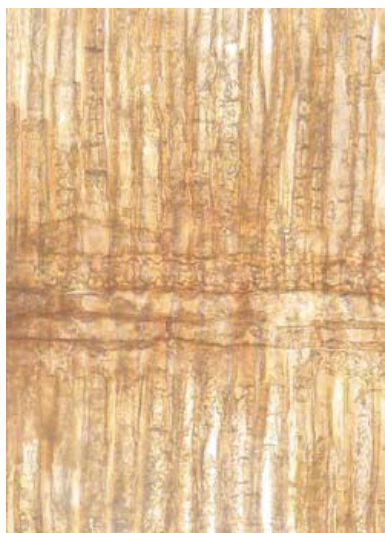
— 10 μm

### 甲懸Ⅱ遺跡の花粉・胞子

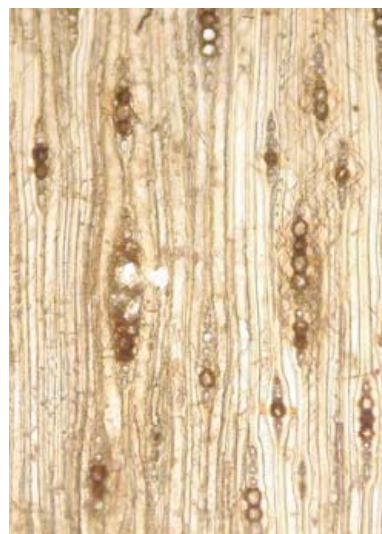
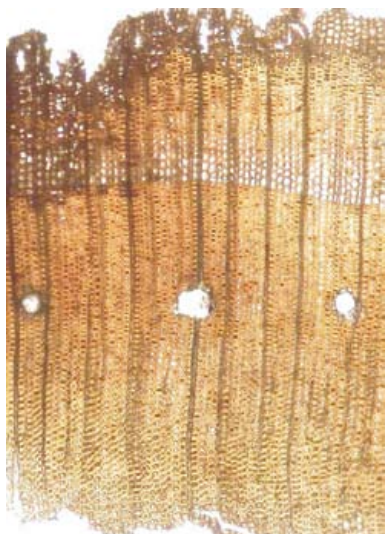




横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.1mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 1. C-14 SD06 最下層 2004.12.20 アカマツ



放射断面 ————— : 0.1mm      放射断面 ————— : 0.05mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 2. C-14 SD06 最下層 2005.01.13 アカマツ



横断面 ————— : 0.5mm      放射断面 ————— : 0.1mm      接線断面 ————— : 0.2mm  
 3. D-14 SD06 最下層 2004.12.16 アカマツ

甲懸Ⅱ遺跡谷 SV06 出土木材 I





# 報告書抄録

Tab. 4

ふりがな	いっばんこくどう 23 号線中勢道路発掘調査報告—鈴鹿 5 工区 甲懸Ⅱ遺跡—							
書名	一般国道 23 号線中勢道路発掘調査報告—鈴鹿 5 工区 甲懸Ⅱ遺跡—							
編著者名	吉田真由美							
編集機関	鈴鹿市 鈴鹿市考古博物館							
所在地	〒 513-0013 三重県鈴鹿市国分町 2 2 4 番地 TEL0593 (74) 1994 FAX0593 (74) 0986							
発行年月日	西暦 2005 年 3 月 31 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
こうがけ 甲懸Ⅱ	みえけんすずかしのうちょう 三重県鈴鹿市稲生町	市町村	遺跡番号	34°	136°	2004 年 10 月 ～ 2005 年 2 月 9 日	2,650m <sup>2</sup>	道路建設
		24207	1164	50′	32′			
					45″	55″		
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
包蔵地	古墳	谷・土坑・小穴		縄文土器・弥生土器・ 須恵器・埴輪・磨製 石斧・石器剥片		谷から多数の埴輪出土		

## 鈴鹿 5 工区 甲懸Ⅱ遺跡

発行日 2005 年 3 月 31 日

編集・発行 鈴鹿市教育委員会

鈴鹿市考古博物館

〒 513-0013

三重県鈴鹿市国分町 224 番地

TEL0593 (74) 1994

AX0593 (74) 0986

E-mail:kokohakubutsukan

@city.suzuka.mie.jp

URL:http://www.edu.city.suzuka.

mie.jp/museum/

印刷 早川印刷株式会社

